

3

・

11

を忘れない

まず自分の命を守り、
次に身近な人を助け、
さらに地域に
貢献できる人になるために

あの日・・・

被災地から、東京都の中学生にメッセージをいただきました。

あの日... 3月11日の事は、一生忘れられない出来事となりました。大きな揺れが私達をおそい私は何が何だか理由がわからないうちに、先生の指示に従って、校庭へ避難しました。校庭で待機していると家の人を迎えに来ました。町中逃げる人々で車は渋滞していました。私の通っている学校は川のそばにあり、「まさかここまで」と思いながらも坂の上の小学校へ避難しました。その後すぐです。あのあつららしい津波がこの町をおそったのは...。その日から電気も水道も止まり、寒くて、寒くて不安で、皆でよりよって夜を明かしました。陽が昇り、やがて目に入ったのは、自衛隊の皆さんの姿でした。あれ程、心強く感じた事はありませんでした。町がどんな状況なのか、学校の皆はどうなったのか、情報が入らない事がより一層私達を不安にさせました。夜が来る度、「早く朝にならないかなあ」と思いながら1日1日を過ごしました。今まで何も不自由なく生活していた事がとても幸せな事だと改めて感じました。今回の震災を経験して、皆で火をおこしたり食べ物分けあったり、声を掛けあったり、人と人との絆の深さ、協力するこの大切さを教えてもらった様な気がします。そして、一番気づかされたのは「命の大切さ」です。昨日まで普通に生活していた人々が、何の罪もない人々が突然命を奪われてしまった事。私は生きていて良かったとばかり思いました。顔も知らない私達の為に全国の皆さんが応援してくれています。私は感謝の気持ちで一杯です。救われた命だからこそもっと大切に一生懸命生きていきたいと思えます。

平成23年10月 宮城県仙台市立南中学校

梶原 友衣

あの日から～陸前高田市立横田中学校の取り組み～

3月11日、横田中学校では翌日の卒業式にむけて1・2年の生徒が準備をしていました。

2時46分、体験したことのないほどの揺れを感じ、校庭の真ん中に飛び出しました。ゴォーという地鳴りと模型の建物のように大きく揺れる校舎のことを今でもはっきり覚えています。

あの日から、私たちがどんなふうに春休みを送ってきたのかをここに記してみたいと思います。

3月11日の夕方の時点で決まっていたことは、翌日の「卒業式」は中止ということだけでした。通信手段はすべて不通になっていたため、この連絡は先生方が手分けして自宅訪問で伝えました。

3月12日 横田中学校の校庭は自衛隊の駐屯地となる。校舎2階は神奈川県警の宿泊施設となる。

3月26日 横田中学校の体育館・校舎に全国からの支援物資が搬入され始める。関西広域連合のボランティアが派遣され、支援物資の搬入、仕分け、搬出の仕事にあたってくださる。

3月28日 少数の市職員と横田中学校の職員だけでの対応に困っていたところ、中学校の近所に住む元PTAの方が支援物資のボランティアを買って出してくれました。その後、家族や近所の中学生も誘ってくれました。全国から送られてくる支援物資は膨大な量で大変な仕事でしたが、この作業に取り組むことは横中生の貴重な体験になると考え、翌日に全校を招集することにしました。(連絡は、この日から自主的にボランティア活動に参加していた横中生徒会長が歩いて回ってくれました。)

3月29日 全校での支援物資のボランティアが始まりました。ただし、さまざまな家庭事情があるので翌日以降は有志のボランティアとしました。といっても、ほとんどの生徒がほぼ毎日このボランティアに従事してくれました。この活動の中心として大阪から来ていたボランティアの方々が活躍していました。始めはぎこちなかった中学生たちも次第に大阪の人々と打ち解け、最後には頼りにされるまでになりました。

支援物資の仕事は「重労働」の一言に尽きます。大小さまざまな箱をトラックから運び、大まかに仕分けして重ねます。箱を開け、中身を確認して「新・古」「男・女」「種類」などの仕分けを行います。果てしなくこの繰り返しです。4月20日に学校再開のめどがたってからは、午前中に新学期の準備、午後からボランティアという生活を前日まで送りました。



当初、なんのめどもなく途方に暮れることの多かった春休みですが、このボランティア活動があったおかげで、私たちは自分たちのやるべきことをはっきり自覚するとともに、前に向かって進んでいくという気持ちになれました。

平成23年10月21日 岩手県陸前高田市立横田中学校 若竹生徒会



津波

岩手県釜石市の津波（引き波）



津波に飲み込まれる宮城県名取市の関上港広浦地区。津波は地震発生約30分後には東北地方を襲い、午後3時18分には岩手県大船渡市で8.0mの津波が記録された。

マグニチュード 9.0

がれきの街に打ち上げられた船（大船渡市大船渡町）

東日本大震災

平成23年3月11日午後2時46分



東京では地震直後から公共交通機関が止まり、家に帰れない多くの帰宅困難者が出た。徒歩で帰ろうとする人々や車の渋滞で都内は終日大混乱の状態が続いた。（新宿駅西口前）



震度5強の揺れを記録した東京では九段会館の天井が崩落し死傷者が出た。

東京



平成23年(2011)3月11日 大渋滞する皇居周辺

地震、津波・・・そして、復興に向けて



激しく炎を上げて燃え続けた千葉県市原市にある精油所のLPガスタンク。地震によりガスタンクが落下、下にあったガス管が破裂して爆発炎上した。

火災

倒壊

倒壊した岩手県釜石市



岩手県宮古市役所庁舎に掲げられたメッセージ

復旧へ

東京都からは、東京消防庁、警視庁がいち早く駆けつけ、迅速かつ機動的な活動を行った。被災地では、各自治体、自衛隊、消防、警察などによる懸命な救援活動が続く、復興に向けた取り組みが行われた。

はじめに

平成23年3月11日午後2時46分、東北地方太平洋沖で、我が国観測史上最大のマグニチュード9.0という巨大地震が発生しました。この地震は、最大震度7という強い揺れに加えて大津波を発生させ、東北から関東に至る広い地域に深刻な被害を与えました。

被災地では、民家や学校、商業施設、工場だけではなく、街そのものが破壊されてしまいました。被害はそれだけではありません。一万数千もの尊い命がこの大震災によって失われたのです。

また、無事に避難できたとは言え、住んでいた家を失ったり、働いていた職場を失ったりして、いまだに以前の生活を取り戻せない方々が数多くいます。大震災の爪跡は東日本各地に深く刻まれています。

「3.11を忘れない」

この言葉は、被災地だけに当てはまるものではありません。

私たちの住む東京都は、過去に関東大震災を体験し、近い将来、首都直下地震の発生も予測されています。

東京都で学ぶ中学生の私たちも、東日本大震災の記憶を忘れず、防災意識を高め、いざというときに、まず自分の命を守り、次に身近な人を助け、さらに地域に貢献できる人になれるように、学んでいきましょう。

目次

教科等との関連

- 国 国語
- 社 社会
- 理 理科
- 保 保健体育
- 家 技術・家庭 (家庭分野)
- 英 英語
- 道 道徳
- 総 総合的な学習の時間
- 特 特別活動
- 読みもの

あの日…	表紙裏 -1
カラーグラビア 東日本大震災	2
はじめに	4

第一章 知っておこういろいろな災害

年表で見る主な自然災害〈日本の大災害〉	6
地震による災害(建物の倒壊・火災・津波・液状化・土砂崩れ)	8
火山の噴火による災害(火砕流・溶岩流・火山灰・火山ガス)	10
台風による災害(風害・水害と土砂崩れ)	12
大震災から学ぶ(1)～東日本大震災～〈東北地方太平洋沖地震〉	14
大震災から学ぶ(2)～阪神・淡路大震災～〈兵庫県南部地震〉	16
大震災から学ぶ(3)～関東大震災～〈関東地震〉	18
大震災から学ぶ(4) 関東大震災とその後の復興	20
先人が伝える防災の教え	22
古典文学に見る地震	24

第二章 大災害への準備と対策

首都直下地震等の脅威(1) 東京湾北部地震と多摩直下地震の被害想定	26
首都直下地震等の脅威(2) 元禄型関東地震と立川断層帯地震の被害想定	28
大地震発生時の行動を考えておこう	30
日頃の備え、家庭での備え	32
地域防災マップを作ろう	34
応急手当の基本	36
地震発生時の情報の収集と活用 ～不確かな情報に振り回されないために～	38
海外メディアが伝えた東日本大震災と日本の評価	40
世界中の人に恩返ししたい	42

第三章 その日に備えて ～自助・共助の心～

いま、私たちにできること	44
地域の防災訓練に参加しよう(1)	46
地域の防災訓練に参加しよう(2)	48
東日本大震災で活躍した東京消防庁ハイパーレスキュー隊	50
東京消防庁ハイパーレスキュー隊員からのメッセージ	52
防災について調べよう	54
東京都の防災対策を調べてみよう	56
復興に向けて…	58

年表で見る主な自然災害

日本は四季折々の変化に富み、豊かな自然に恵まれた国です。その一方で台風にも位置することから、長い歴史の中で台風、大雨、地震、火山の噴火などの自然災害を引き起こしたか、過去の災害について学び、防災について考えていきましょう。

主な地震年表

年	震度	被害
869年 貞観11年	M8.3	貞観地震 (東北地方で大津波、犠牲者約千人)
1185年 元暦2年	M7.4	元暦地震 (死者約千人)
1498年 明応7年	M8.2 M8.4	明応地震 (東海道死者約四万一千人)
1586年 天正13年	M7.8	天正地震 (死者多数)
1605年 慶長9年	M7.9	慶長地震 (津波による死者多数)
1703年 元禄16年	M7.9 M8.2	元禄地震 (死者三万人以上)
1707年 宝永4年	M8.6	宝永地震 (我が国最大級の地震の一つ、死者一万人以上)
1854年 安政元年	M8.4	安政東海地震 (死者一〜三千人)
1854年 安政元年	M8.4	安政南海地震 (死者数千)
1855年 安政2年	M7.0 M7.1	江戸地震 (死者約七千人)
1891年 明治24年	M8.0	濃尾地震 (内陸部で最大級、死者七千人超)
1896年 明治29年	M8.2	明治三陸地震津波 (死者約一万人)

明応地震による大津波で大仏殿が流され露座となった神奈川鎌倉市高德院の大仏



安政2年(1855)江戸地震の余震が続く江戸で、地震を起こしたとされる地下の大鯨を描いた錦絵が流行した。



主な火山噴火年表

年	被害
1707年 宝永4年	富士山宝永大噴火 (火砕流・火山泥流などの被害)
1783年 天明3年	浅間山噴火 (死者千五百一十一人)
1792年 寛政4年	雲仙普賢岳噴火 (眉山の崩壊により津波が発生。死者約一万五千人)
1902年 明治35年	伊豆鳥島噴火 (地震などの被害、死者五十八人、溶岩流や)
1914年 大正3年	桜島噴火(大正大噴火) (死者五十八人、溶岩流や)
1926年 大正15年	三宅島噴火 (溶岩流や火山灰などの被害、死者十一人、火山弾や)
1940年 昭和15年	三宅島噴火 (溶岩流などの被害、死者十一人、火山弾や)
1983年 昭和58年	伊豆大島噴火 (全島民が島外に避難)
1986年 昭和61年	雲仙普賢岳噴火 (死者・行方不明四十四人)
1991年 平成3年	御嶽山噴火 (死者五十七人、行方不明六人)
2000年 平成12年	三宅島噴火 (全島民が島外に避難)
2014年 平成26年	口永良部島噴火
2015年 平成27年	三宅島噴火

● 赤字は、関東で起きた災害です。
● 赤丸内の数字は、関連ページを表しています。

火山灰に埋もれる民家 [平成12年(2000)7月撮影]



三宅島噴火

〈日本の大災害〉

社理

の通り道にあるなど気象現象の影響を受けやすく、地震火山活動が活発な環太平洋火山帯自然現象が人々の生活に様々な被害を及ぼしてきました。どのような自然現象がどのような。

年	震度	被害
1923年 大正12年	M7.9	関東地震(関東大震災) (死者十万人超)
1933年 昭和8年	M8.1	昭和三陸地震 (死者・行方不明三万六千四百人)
1943年 昭和18年	M7.2	鳥取地震 (死者千八百十三人)
1944年 昭和19年	M7.9	東南海地震 (死者・行方不明千二百二十三人)
1946年 昭和21年	M8.0	南海地震 (死者千三百三十人)
1948年 昭和23年	M7.1	福井地震 (死者三千七百六十九人)
1960年 昭和35年	M9.5	チリ地震津波 (死者・行方不明百四十二人)
1978年 昭和53年	M7.0	伊豆大島近海地震 (死者二十五人)
1983年 昭和58年	M7.7	日本海中部地震 (死者百四十人)
1993年 平成5年	M7.8	北海道南西沖地震 (津波を観測。死者二百一人)
1995年 平成7年	M7.3	兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災) (死者六千四百三十四人)
2004年 平成16年	M6.8	新潟県中越地震 (死者六十八人)
2007年 平成19年	M6.8	新潟県中越沖地震 (死者十五人)
2011年 平成23年	M9.0	東北地方太平洋沖地震(東日本大震災) (死者・行方不明二万八千六百七十七人(平成二十四年十月二十日現在))



関東大震災で焼け落ちた新橋駅舎(港区)

主な台風・風水害年表

年	被害
1910年 明治43年	明治四十三年関東大水害 (死者・行方不明千三百四十九人)
1934年 昭和9年	室戸台風 (死者千七百二人、行方不明三百三十四人)
1945年 昭和20年	枕崎台風 (死者二千四百七十三人、行方不明千二百八十三人)
1947年 昭和22年	カスリーン台風 (死者七十七人、行方不明八百五十三人)
1949年 昭和24年	キテイ台風 (死者百三十五人、行方不明千五百五人)
1954年 昭和29年	洞爺丸台風 (死者・行方不明千七百六十一人)
1957年 昭和32年	諫早豪雨 (死者八百五十八人、行方不明百三十六人)
1959年 昭和34年	伊勢湾台風 (死者四千六百九十七人、行方不明四百一人)
2004年 平成16年	平成十六年台風第二十三号 (死者九十五人、行方不明三人)
2011年 平成23年	平成二十三年台風第十二号 (死者六十八人、行方不明千五百五人)
2011年 平成23年	平成二十三年台風第十五号 (死者十二人、行方不明三人)
2013年 平成25年	平成二十五年台風第二十六号 (死者三十六人、行方不明四人)



カスリーン台風による葛飾区の大規模水害



地震による災害 (建物の倒壊・火災・津波・液状化・土砂崩れ)

社 理 保

東京を含む南関東地域は、日本列島の中でも特に地震の多い地域です。南関東地域の下では、フィリピン海プレートと太平洋プレート（海洋プレート）が北米プレート（大陸プレート）の下に沈みこみ、複雑に押し合っているため、地震が多く発生します。

建物の倒壊

強い地震は、耐震性の低い建物などの倒壊を引き起こし、内部や周辺にいる人を下敷きにしたり、内部に閉じ込めたりするなどの一次災害を引き起こします。また、家具の転倒による被害も数多く報告されています。



1階部分が崩れ、傾いたビル【阪神・淡路大震災 平成7年(1995)1月】



橋脚からなぎ倒された高速道路【阪神・淡路大震災 平成7年(1995)1月】

火災

地震は火災による二次災害を引き起こします。建物の倒壊による電気機器や配線からの漏電や、ガス・油を燃料とする器具からの出火による火災は、場合によっては地震そのものよりも大きな被害をもたらすことがあります。

揺れが収まった後、火を消し、ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落としてから避難することが必要です。



地震による石油タンクの火災【東日本大震災 平成23年(2011) 千葉県市原市】

津波

津波

海底で地震が起きた場合には、津波が発生することがあります。津波は、海底から水面までの海水が一気に動くので、普通の波とは比較にならない大きなエネルギーになります。東日本大震災では、太平洋岸の幅広い地域に津波が押し寄せ、沿

岸や港湾の施設だけでなく土地・建物・道路などを巻き込み、大きな被害を生じさせました。その被害は、場所によってははるか内陸部にまで及び、多くの人命を奪いました。



数分後

押し寄せた津波に飲み込まれた家屋【東日本大震災 平成23年(2011) 岩手県大槌町】

液状化

地盤の柔らかい湾岸地域などでは、液状化が発生する場合があります。

東日本大震災では、東京都内で数か所に液状化が発生しましたが、上下水道などのインフラに大きな影響はありませんでした。

土砂崩れ

山間部や傾斜地では、地震の揺れによって土砂崩れが発生する危険性があります。土砂崩れが発生すると、家屋や道路が土砂に埋まるなど、大きな被害が生じます。

防災トピック

● 地震の原因 ●

地球を覆う厚さ100km前後の固い岩盤のことをプレートと言います。プレートには大陸プレートと、それよりも密度の大きい海洋プレートがあります。両者がぶつかり合う場所では、海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込んでいます。大陸プレートは海洋プレートの沈み込みによって少しずつゆがんでいき、耐えられなくなって反発したり、破壊が起きたりして地震が発生します。また、プレート同士のぶつかり合いの影響で、大陸プレートの内部で活断層がずれるために発生する地震もあります。

四つのプレートが重なり合う日本



火山の噴火による災害 (火砕流)

ようがん
・溶岩流・火山灰・火山ガス

社 理

大陸プレートの下に海洋プレートが沈み込む部分では、海洋プレートと一緒に地中に取
り込まれた海水や地中の高温などの影響で岩石が溶け、マグマが発生します。このマグマ
からできた火山ガスや溶岩などの火山噴出物が噴き出すことを噴火と言います。

噴火



伊豆大島噴火の溶岩流 [昭和 61 年 (1986) 11 月 19 日撮影]



三宅島 海上を数十 km 先まで流れる噴煙
[平成 12 年(2000)12 月 5 日撮影]



三宅村立阿古中学校 3 年(当時)、山田順さんの絵
[昭和 58 年(1983)「三宅島大噴火記録誌」から]

火砕流

火砕流とは、高温の火山ガスとともに、熱い溶岩
や火山灰などが高速で山の斜面を下ってくる現象で
す。速度が時速 100km 前後になることもあり、温
度は数百度にも達すると言われています。そのため、
火砕流が発生してから避難したのでは間に合いません。
火砕流の避難勧告がなされたなら、速やかに避難
する必要があります。

長崎県雲仙普賢岳の噴火[平成 3 年(1991)]では、
大火砕流が発生し、41 人が死亡しています。

また、平成 12 年 (2000) の三宅島の噴火では、
8 月 29 日に小規模の火砕流が発生しました。



三宅島の火砕流 [平成 12 年 (2000) 8 月 29 日撮影]

溶岩流・火山灰・火山ガス



三宅島の大規模噴火[平成12年(2000)8月10日撮影]

地中にあったマグマが、火山活動によって地表に噴出した
ものが溶岩です。噴出した溶岩が地表を流れるものを溶岩流
と言います。溶岩流は速いものでも時速 30km 程度ですが、
高温のため山林や建物・道路など全てを焼き払い、埋めてし
まいます。しかも、溶岩流は冷えると固まって岩になってし
まうため、その場所が道路や住宅地、田畑であった場合、元
に戻すことは大変困難です。

火山から噴き出す噴煙には、噴石や火山灰が混じってい
ます。火山灰は上空の風に乗って広い範囲に降り注ぎ、堆積し
ます。火山灰は農作物を枯らすほか、飛散によって人間の目・
鼻・のど・気管支に異常を引き起こすことがあります。

火山活動によって火口や山腹などから放出される火山ガス
には、二酸化硫黄、硫化水素などが含まれ、のどや目に痛み
を感じたりします。濃度が濃いガスを吸い込むと命にかかわ
ることもあります。

もし火山が噴火したら

- テレビやラジオの情報を確認し、速やかに遠くへ逃げましょう。
- 灰が侵入しないように窓を閉め、ヘルメットやガスマスク、防塵眼鏡を着用しましょう。
- 噴石直撃を避けるため、強固な建物内に避難しましょう。

防災トピック

平成 12 年 (2000) 7 月に発生した三宅島の噴火では、噴石、降灰による被害とともに強い
火砕流や降雨により泥流の発生する可能性が出てきたため、9 月には全島民が島を離れました。
この噴火では、世界に類を見ないほどの大量の火山ガスが、長期間にわたり発生し続けました。

平成 17 年 (2005)
2 月には避難が解除さ
れ、約 3000 人が帰島
していますが、火山ガス
は平成 23 年 (2011)
現在も発生しており、山
頂付近は立ち入り禁止
区域に指定されていま
す。



噴火の様子を伝える新聞記事
[平成 12 年(2000) 8 月 19 日
(提供 東京新聞)]



避難や支援の状況を伝える新聞記事
[平成 12 年(2000) 9 月 2 日 (提供 毎日新聞)]



台風による災害 (風害・水害と土砂崩れ)

台風は、毎年日本列島を襲い、災害を引き起こしています。熱帯や亜熱帯の海上で発生した熱帯低気圧である台風は、上空の風に流されて日本に接近・上陸し、風害、水害、高潮害、波浪害などをもたらします。また、大雨による洪水や浸水、土砂崩れ、地すべりなどを併発することによって、その被害は拡大します。

風害



渋谷区道玄坂で台風の強風によって倒れたタクシーを直撃した街路樹
[平成23年(2011)9月の台風第15号]

台風は、その強い風による家屋の倒壊や、風で飛ばされた飛散物による負傷、農作物の落果などの被害をもたらします。また、送電線が切断されるなど電力施設に被害が生じた場合には、停電や通信関係に混乱をきたすほか、強風とあまって交通を麻痺させることもあります。

平成23年(2011)9月21日静岡県浜松市付近に上陸した台風第15号は、東海・関東・東北地方を縦断し、太平洋に抜けていきました。この台風は東京を直撃し、その通過時間帯が帰宅ラッシュ時と重なったため、公共交通機関が軒並み運休となり、多くの帰宅困難者を発生させました。この台風は東日本大震災の被災地を通過したため、被災地や避難先、仮設住宅などにも被害を及ぼし、災害の恐ろしさを改めて感じさせました。

また、台風が多く発生する9月には、竜巻と推定される突風が多く確認されています。竜巻は発達した積乱雲などに伴って発生する激しい渦巻きで災害を引き起こすことがあります。

もし台風や豪雨が発生したら

- テレビやラジオで最新の情報を得ましょう。
- 外出を控えましょう。
- 浸水前に早めの避難を心掛けましょう。

水害と土砂崩れ

台風は、強い風とともに大雨を伴います。大量の降水により河川が増水し、さらには堤防が決壊することもあります。大雨、河川が増水は、住宅の浸水や資材の消失、農作物の被害をもたらします。さらに、土砂崩れや、土石流の発生などの土砂災害を誘発し、被害を大きくすることがあります。



三原山斜面で発生した土石流(大島町)
[平成25年(2013)10月の台風第26号]



中野区の妙正寺川の氾濫
[平成17年(2005)9月4日]

防災トピック

● 大きな災害となった日本の台風 ●

カスリーン台風

[昭和22年(1947)9月8日~17日]

紀伊半島沖から東海、関東、さらに三陸沖へ抜けた大型台風です。

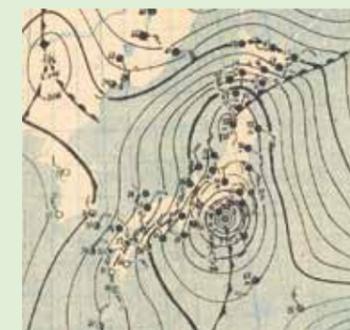
9月14日から15日にかけて記録的な大雨が降ったため、埼玉県大利根町(現加須市)の利根川の堤防が約350mにわたって決壊し、関東平野は大洪水に見舞われました。その他に、東京では荒川の桜堤が決壊し、葛飾区の金町、柴又、江戸川区の小岩などが水没しました。この台風による被害は死者・行方不明者1,930人、住宅損壊9,298棟、住宅浸水384,743棟に上り、戦後間もない日本に大きな打撃を与えました。



桜堤(葛飾区金町6丁目)の決壊
[昭和22年(1947)9月19日撮影]



本所南割下水付近の避難状況(墨田区)



関東を直撃したカスリーン台風の天気図
[昭和22年(1947)9月15日]

昭和の三大台風

(室戸台風・枕崎台風・伊勢湾台風)

伊勢湾台風 [昭和34年(1959)9月] は、紀伊半島に9月26日に上陸し、東海地方を午後9時頃に直撃した超大型台風です。気象庁の観測によると、日本上陸時の最低気圧は929.2ヘクトパスカル、最大瞬間風速55.3m/秒を記録し、死者・行方不明者は5,098人に上り、室戸台風 [昭和9年(1934)9月]、枕崎台風 [昭和20年(1945)9月] と並んで、昭和の三大台風ともされています。



室戸台風[大阪市生野区付近の被害、昭和9年(1934)9月撮影]



大震災から学ぶ (1)

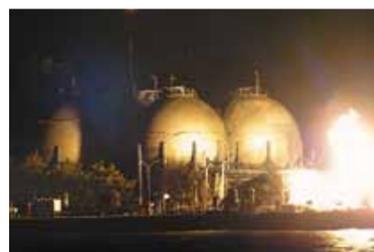
地震を原因とする災害のことを震災と言います。日本の自然災害史上最大の人的被害をもたらしたのは、大正12年(1923)に発生した関東大震災でした。その72年後の阪神・淡路大震災、88年後の東日本大震災等、過去の大震災について学び、いずれ来であろう首都直下地震等に備えましょう。



平成23年(2011)3月11日 押し寄せる津波(岩手県陸前高田市)



河口に到達した津波(宮城県仙台市)



石油施設で発生した火災(千葉県市原市)



津波で流された飛行機(宮城県名取市)

東日本大震災〈東北地方太平洋沖地震〉

平成23年(2011)3月11日午後2時46分18秒発生

東北地方の太平洋岸を中心に関東圏にも大打撃を与えたこの地震は、マグニチュード9.0を記録し、千年に一度の巨大地震と言われています。本震の後、マグニチュード7を超える余震が7回も続きました。

地震直後に発生した津波は、北海道から九州までの全域に及び、東北地方の太平洋岸では高さ20mを越す大津波が襲い、沿岸部に位置する市街地の多くが壊滅的被害を受けました。死者・行方不明者約1万9千人のうち約9割が津波で亡くなっています。

福島県双葉郡では、高さ15mの津波が福島第一原子力発電所を襲い、原子炉や使用済み核燃料プールの冷却機能が失われました。その結果、放射性物質が漏れ出し、住民の強制避難、食料の放射能汚染、土壌の放射能汚染など、様々な問題が発生しています。また、消費者の買い控えや、旅行者数の減少など放射能関連の風評被害も起こっており、未だ事態は収拾していません。

被災状況

死者・行方不明: 18,617人

建物全壊: 129,627戸

建物半壊: 266,440戸

建物焼失: 279戸

警察庁発表: 平成24年(2012)11月21日現在

～東日本大震災～

〈東北地方太平洋沖地震〉



復興に向けて～中学生にできることから～

平成24年(2012)8月宮城県石巻市において「石巻市子どもサミット2012」が開かれました。このサミットには市内の20の中学校から生徒会役員40名が参加し、復興に向けて自分たちにできることについて話し合いました。参加した中学生からは「獅子舞といった伝統文化を通して地域を元気にする」「仮設住宅周辺でのごみ拾いをする」などの様々なアイデアが出され「将来を担う世代として今からできることを考えていきたい」との意見が表明されました。東京に住む私たちも自分たちにできることから考えてみましょう。



平成23年(2011)4月10日(岩手県大槌町) 民宿の上に乗上げた隣町の釜石市の観光船「はまゆり」



平成24年(2012)8月20日 「石巻市子どもサミット2012」の様子(宮城県石巻市)

防災トピック

短歌によまれた東日本大震災

岡野弘彦

したたりて青海原につらなれる この列島を守りたまへな
子も妻も帰らざるまま三月経し 海にむかひて 何を祈らむ
子も親もいづくゆきたる。海原の水逆まきて 家並を呑む
すさまじき地震ゆりしち みちのくの大原に 凶つ浪たつ

（岡野弘彦 歌集「美しく愛しき日本」から）
歌人 歌集「美しく愛しき日本」から
への祈りと、海に閉まれた火山列島日本への限りない思いをこめて詠んだ歌である。



平成24年(2012)9月3日(岩手県大槌町) 観光船「はまゆり」やがれきは撤去され、雑草だけが茂っている。



大震災から学ぶ (2)

はんしん あわじ
～阪神・淡路大震災～ <兵庫県南部地震>



平成7年(1995)1月17日 黒煙をあげ燃え上がる神戸

阪神・淡路大震災〈兵庫県南部地震〉

平成7年(1995)1月17日 午前5時46分発生

阪神・淡路大震災をもたらした、兵庫県南部地震は、活断層が引き起こした直下地震です。揺れは、兵庫県南部の神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市、淡路島などで強く、多くの人々が睡眠中であつた真冬の早朝に発生したため、死因のほとんどが家屋の倒壊などによる圧死でした。特に神戸市の市街地の被害は大きく、多くの火災が同時に発生するとともに鉄道の高架橋や駅、高速道路やビルなどが崩れ落ちました。

また、神戸市の長田区では、古い木造住宅が密集していたため次々と火の手が広がり、これに道路の寸断や消火用水が確保できないことも加わって消火活動は困難を要しました。このことから住民同士による「共助」の重要性がうたわれるようになりました。

(平成13年4月23日 気象庁7.2から7.3と訂正)

被災状況

死者・行方不明：6,437人
(内、行方不明者3人)
住家全壊：104,906戸
住家半壊：144,274戸
建物焼失：7,574戸
(半焼・部分焼等含む)

総務省消防庁 確定報：
平成18年(2006)5月19日

共助の大切さ～地域で助け合う～

阪神・淡路大震災以降、各地において、災害に強いまちづくりが進められました。例えば建物の耐震化や不燃性の強化、高速道路や鉄道の高架橋の補強などです。また、災害用伝言ダイヤル「171」や緊急地震速報も一般に普及し、水道水や電気、ガスなどのライフラインの復旧も当時に比べ一段と早くなっています。しかし、何より大切なのは「地域の安全は地域で守る」という視点です。

震災後、神戸市を中心に、協働によるまちづくりの気運が高まり、災害時のボランティア活動や自主的な防災活動の重要性が全国に広がっていきました。



平成7年(1995)1月18日
火災でくすぶり続ける神戸市長田区



平成10年(1998)12月20日 地域の人々との触れ合い～
神戸市長田区の大園公園でのもちつき



平成24年(2012)6月10日 神戸市長田区にある阪神・淡路大震災の復興シンボル「鉄人28号」の前で岩手県大船渡市の伝統芸能「鹿踊」を披露する人々

防災トピック

野島断層

野島断層は、兵庫県淡路島の旧・北淡町(現・淡路市)の北端にある江崎灯台付近から南方の富島地区(現・淡路市宮島)までの約10kmにわたる活断層*です。

これは、兵庫県南部地震の際に活動した断層の一つで、震源に最も近いものです。北淡震災記念公園内にある野島断層保存館には、この断層のうち約140mが展示されています。

*活断層とは、およそ180万年前に繰り返し活動し、今後も活動する可能性がある断層のことである。地震の規模は断層の長さに関係があり、長い断層ほど大きな地震をおこすとされている。



保存されている野島断層



大震災から学ぶ (3)

～関東大震災～ 〈関東地震〉



日本橋より魚河岸及三越呉服店附近延焼 [台東区立下町風俗資料館所蔵]



帝都大震災火災系統地図 [台東区立下町風俗資料館所蔵]



田端駅(北区)の被災者 [東京都震災復興記念館所蔵]



当日大阪で発行された号外 (大阪朝日新聞)

関東大震災〈関東地震〉

大正 12 年(1923)9月 1 日午前 11 時 58 分 32 秒発生

関東大震災の被害は東京や神奈川を中心に南関東一帯に及びました。東京で一番揺れが激しかったのは現在の墨田区や江東区一帯で、家屋の2～3割が壊れたと言われています。また、発生時がちょうど昼頃で、火を使っていた家庭が多かったため、多くの家々から出火しました。当日、関東地方には能登半島付近にあった台風の影響で強風が吹いていたため、火はまたたく間に広がり、下町の大半が消失する大火となってしまいました。当時の東京市街地の4割が火災によって被害を受けたと言われています。死者・行方不明者約 11 万人のうち 87.1%が火災で亡くなっています。

被災状況

- 死者・行方不明：105,000人余り
- 住家全壊：109,000戸余り
- 住家半壊：102,000戸余り
- 住家焼失：212,000戸余り

理科年表 平成24年(平成23年11月)

震災の被害

■凌雲閣(浅草十二階)の半壊

今の台東区浅草にあった凌雲閣は、明治 23 年(1890)に建てられた 12 階建ての赤煉瓦造りの八角形の塔で、「浅草十二階」とも呼ばれました。高層ビルの先駆けであり、日本で初めてエレベーターが設置されたことでも知られています。

凌雲閣は、当時の観光名所として知られ、江戸川乱歩(推理小説家。名探偵明智小五郎と小林少年を団長とする少年探偵団が怪人二十面相と対峙する「少年探偵団シリーズ」が有名)の小説『押絵と旅する男』の舞台にもなっています。

しかし、大正 12 年(1923)9月 1 日に発生した関東大震災で、建物の 8 階以上の部分が崩壊し、その後、爆破により解体されました。



往時の姿をしのぼせる錦絵に描かれた凌雲閣 [東京都江戸東京博物館所蔵]



崩壊した浅草凌雲閣 [台東区立下町風俗資料館]



尋ね人の貼り紙(東京駅交番前)街のあちこちに、関東大震災で行方不明となった家族・友人を探す貼り紙が貼られました。 [東京都震災復興記念館所蔵]

防災トピック

『あの日この日』

私の家は、母屋も二階の方も共に東へ倒れてゐた。私方の上隣りの、長谷川揆一家もつぶれて、数多い植木だけが見えた。道路のつき当たりの宗我神社の拝殿だけがつんのめるように崩れ、うしろの小さい本殿だけ立ってゐた。神楽殿もつぶれた。空薬罐をぶらさげた細君の家をふくめて、向う三軒に当る農家もすべてつぶれた。見える家で無事なのは一軒もなかった。

(尾崎一雄『あの日この日』(一)「23 関東大震災、その被害状況(大正 12 年)」講談社文庫から)

当時、早稲田大学の学生であった尾崎一雄 [明治 32 年(1899)―昭和 58 年(1983)芥川賞作家] は、夏休みで帰省していた神奈川県小田原市で被災している。後年、その時の被害状況や人々の様子を、随筆『あの日この日』に詳細に記している。



大震災から学ぶ (4)

関東大震災で東京は焼け野原となりました。壊滅的な被害を受けた東京は、どのように復興したのでしょうか。

復興に向けて～行政機関による「公助」～

関東大震災発生の翌日〔大正12年(1923)9月2日〕に内務大臣になった後藤新平は、9月6日に「帝都復興ノ議」を閣議に提出しました。さらに、9月27日には帝都復興院が設置され、その総裁を兼務することとなった彼は、江戸時代以来と言われる東京の復興計画を提案しました。具体的には、道路や公園、橋などの整備と大規模な区画整理の実施です。

財源不足で計画はかなり縮小されましたが、その際に整備されたものには、昭和通りや大正通り(現靖国通り)などの復興道路、復興区画、復興公園、聖橋や永代橋などの復興橋、耐震耐火構造となった復興小学校などがあります。

なお、関東大震災が起こった9月1日は、昭和35年(1960)に「防災の日」と定められ、この日を含む防災週間には、全国各地で防災訓練が行われるようになりました。

復興道路



復興した九段坂(千代田区) [東京都震災復興記念館所蔵]

復興区画



昭和5年(1930)に開催された『帝都復興展覧会』に出品された八重洲橋付近(東京駅前)の模型 [東京都震災復興記念館所蔵]

復興公園



隅田公園付近(墨田区) [台東区立下町風俗資料館所蔵]

復興小学校



東京市黒門尋常小学校(台東区) [台東区立下町風俗資料館所蔵]

関東大震災とその後の復興



復興した東京の街並み

約6年半をかけて進められた復興事業によって東京は近代都市へと生まれ変わり、昭和5年(1930)には帝都復興祭が行われました。

震災直後



大正12年(1923)9月 焼け落ちた吾妻橋

浅草



昭和5年(1930)12月21日 吾妻橋開通式の様子

7年後

震災直後



大正12年(1923)9月 焼失した上野駅

上野



昭和6年(1931)11月29日 完成間近の上野駅

8年後

震災直後



大正12年(1923)9月 焼け落ちた電線がぶら下がる銀座4丁目(中央区)

銀座



昭和8年(1933)9月 すっかり復興した銀座4丁目

10年後



先人が伝える防災の教え



長い歴史を振り返ると、日本人は、多くの自然災害に立ち向かってきたことが分かります。そして、その中で得た知識や教訓を後世の私たちに、数多く残してくれています。私たちもこうした先人の教えを調べ、それにまつわる史跡等を訪れてみましょう。

大地震にまつわるもの

■ 震災避難記念碑

所在地：中央区日本橋浜町
2-57先
(隅田川新大橋北西隅)

関東大震災では火災により各所の橋が焼け落ち、多くの犠牲者を出しました。しかし、新大橋だけは火災からまぬがれ、逃げ惑う人々の生命を救い、避難橋としての大きな役割を果たしました。

そのため、新大橋は多くの人々から「人助け橋」と呼ばれるようになりました。



■ 関東大震災記念塔

所在地：中央区銀座4-1-2
(数寄屋橋交番裏)

関東大震災から10年後の昭和8年(1933)9月1日に「平和の神」を象徴した銅像が建てられました。台座正面には、長くこの日をしのび二度と惨害をくりかえさぬようにと、「不意の地震に不断の用意」と表示されています。



■ 東京都立横網町公園 (東京都慰霊堂・復興記念館)

所在地：墨田区横網2-3-25

関東大震災では、台風の影響もあり大火が発生しました。当時整備中であった現在の横網町公園には火の手を逃れ多くの人々が避難していました。しかし、持ち込まれた家財道具への飛び火や、風速17メートルの強風により、この一帯はたちまち燃え広がり、多くの焼死者が出ました。



東京都慰霊堂

防災トピック

「歴史」に学び、「震災」を後の世に生かす

「今回の震災では、あまりの揺れの大きさから、平安時代の貞観地震※とその後に発生した津波を連想し、すぐに家族全員を日和山※に避難させた人がいます。歴史的事実を見事に生かした事例です。今回の大震災をどのように把握して、次に生かし、いかに未来につなげるか。これが生き残った者の責務であると考えています。」

(石巻市教育委員会 元教育長 阿部和夫氏の講演より)

※貞観地震 貞観11年(869)に発生したマグニチュード8.3の大地震

※日和山 宮城県石巻市の中心部。旧北上川河口に位置する高さ56メートルの丘陵地。石巻市を一望できる。



昭和三陸津波の碑：昭和8年(1933)「地震があったら津波の用心」石巻市北上地区白浜海水浴場付近に建つ

風水害にまつわるもの

■ 波除碑

所在地：江東区木場6-13-13(平久橋のたもと)

寛政3年(1791)9月4日、深川洲崎一帯に襲来した高潮により、家屋がごとごとく流され多数の死者、行方不明者が出ました。

当時の幕府はこの災害を重く見て、洲崎弁天社から西のあたり一帯の東西285間、南北30余間、総坪数5,467坪(約1万8000㎡)を買い上げて空き地とし、これより海側に人が住むことを禁じ、東北地点(洲崎神社)と西南地点(平久橋のたもと)に波除碑を建てました。



平久橋のたもとの波除碑

■ 大田区立東糀谷防災公園「潮位計」

所在地：大田区東糀谷4-5-1

東糀谷防災公園は避難者を受け入れる防災機能をもった公園です。園内には、東糀谷地区に流れる呑川の防潮堤の高さと、過去に大型台風が来襲した際の潮の高さを表した「潮位計」が設置されています。

※潮位 潮の干満により変化する海面の高さのこと



防災トピック

『稲むらの火』

安政元年(1854)12月24日午後4時、安政南海地震が広村(現在の和歌山県広川町)を襲い、その後、大津波が押し寄せてきました。濱口梧陵は、「逃げる。丘に上がれ。」と必死で村人を避難させるとともに、暗闇の中で逃げ場を失っている村人を助けるため、収穫して積み上げていた「稲むら(稲束を積み重ねたもの)」に火をつけてまわりました。この火を目印に、逃げ遅れた人々は丘に上り、安全に避難することができました。

さらに梧陵は百年後に再来するであろう津波に備え、巨額の私財を投じ、高さ5m、長さ約600mの広村堤防(防波堤)を築きました。安政南海地震から92年後、昭和21年(1946)、南海地震が発生し、高さ4~5mの津波が広村を襲いましたが、広村堤防が村の大部分を守ったのでした。



避難の目印になった稲むらの火



濱口梧陵 (1820~1885)



和歌山県有田郡広川町広村堤防 (「稲むらの火の館」ホームページから作成)

古典文学に見る地震

古来、多くの地震に見舞われてきた我が国では、古典文学の中にも、大地震に関わる記述が多く見られます。科学が発達していなかった時代、昔の人々は、今の私たち以上に、天変地異に対して畏怖の念を抱いていたことが分かります。

鎌倉時代、藤原定家が、京都の奥嵯峨の小倉山の山荘で選んだと言われる『小倉百人一首』の中にも、過去の大地震を例えとして用いた歌があります。

『小倉百人一首』

契りきな かたみに袖をしぼりつ、
末の松山 波こそさじとは

清原元輔

【歌意】（二人で固く）約束しましたよね。

お互いに涙を流しながら、末の松山を波が越すことがないように、決して心変わりはいまいとねえ。



【解説】心変わりした恋人をなじる歌である。

本歌取り（既に詠まれた歌をいろいろな形で取り入れて新たな歌を作る表現方法）による歌で、本歌は、「きみをおきて あだし心をわが持たば末の松山 浪もこえなん（あなたをさしおいて、誰かに私が浮気心をもつたなら、決して越えるはずのない末の松山を波も越えるだろう。絶対に心変わりをすることはないから。）」で、もともとは、『古今和歌集』の東歌、すなわち、東国地方の歌謡である。

「末の松山」は、宮城県多賀城付近にある歌枕の地である。貞観十一年（八六九）、三陸沿岸を襲った貞観地震でも、大きな津波は、末の松山を越えなかったことから、「末の松山 波こそさじとは」は、「絶対に起こり得ないこと」の例えとして用いられている。

今回の東日本大震災でも、「末の松山」のすぐ近くまで津波が押し寄せたが、ついに、大きな波が「末の松山」を越えることはなかった。



末の松山（提供：宮城県観光課）

※清原元輔

『枕草子』の筆者、清少納言の父。三十六歌仙の一人。祖父の清原深養父、娘の清少納言の歌も『小倉百人一首』に選ばれている。

平家一門が壇ノ浦の戦いで滅び、世も鎮まるかに思えた元暦二年（一一八五）、琵琶湖の南部から京都に大災害をもたらした元暦地震が起こりました。鎌倉時代に書かれた『方丈記』や『平家物語』には、この大地震の状況が詳しく記されています。それぞれ、この大地震の様子についてのどのように記述しているか、比較してみましょう。

『方丈記』

鴨長明

大地震

又、同じころかよ。をびた、しく大地震振ること侍き。そのさま世の常ならず。山はくづれて河をうづみ、海はかたぶきて陸地をひたせり。土さけて水湧き出で、巖われて谷にまろび入る。なぎさ漕ぐ船は波にたゞよひ、道ゆく馬は足の立ち処をまどわす。（略）地のうごき家のやぶる、音、雷にことならず。家の内に居れば、忽に拉げなんとす。はしり出づれば、地破裂れ

く。翼なければ空をも飛ぶべからず。龍ならばや雲にも乗らむ。恐れの中かに恐るべかりけるは、只地震なりけりとこそ覚え侍しか。

【大意】 また、同じ頃であったか、とんでもない大地震が襲ったことがあった。その様子といたら、尋常ではなかった。山は崩れて河川を埋め、海では津波が押し寄せて陸地を水浸しにした。大地は割れて水が吹き出し、大きな岩は割れて谷間に転げ落ちる。波打ち際を漕ぎ行く船は、波にさらわれ、道行く馬は、足元が定まらない。（略）地面が大きく揺れ、家が壊れる音は、雷鳴とそっくりである。家の中にいれば、たちまち押しつぶされそうになる。外に走って飛び出せば、地面はひび割れてしまう。外に走って飛び出せば、飛ぶこともできない。もし竜であったならば、雲にでも飛び乗ろうものを。

この世の中の恐ろしいことの中で、最も恐ろしいのは、やはり地震であると思ったよ。

『平家物語』卷十二「大地震」

七月九日の午刻ばかりに、大地おび

た、しくうごいて良久し。（略）くづる、音はいかつちのごとく、あがる塵は、煙のごとし。天暗うして、日の光も見えず。老少ともに魂を消し、朝衆悉く心を尽す。（略）大地さけて水わき出で、盤石われて谷へまるぶ。山くづれて河をうづみ、海たゞよひて浜をひたす。汀こぐ船はなみにゆられ、陸ゆく駒は足のたてどを失へり。洪水みなぎり来らば、岳にのぼっても、などかたすからざらむ。猛火もえ来らば、河をへだてても、しばしもさんぬべし。たゞかなしかりけるは大地震也。鳥にあらざれば、空をまかけりがたく、竜にあらざれば、雲にも又のぼりがたし。白河・六波羅・京中にうちうづまれて、死ぬるもの、いくらといふ数を知らず。

【大意】 旧暦七月九日（新暦八月十三日）の正午頃、大地が非常に強く揺れ動いてしばらく収まらなかった。（略）いろいろなものが崩れ落ちる音は、まるで雷鳴のよう、舞い上がる塵は、煙のようであった。その粉じんで空は真つ暗になり、太陽の光も見えない。老いも若きもただただ驚き、朝廷に仕える人々も庶民も放心している。（略）大地はひび割れ、水が湧き出で、岩が割れて谷に落ちていく。山が崩れて河を埋め、海が漂って浜を浸す。汀を漕ぐ船は波に揺られ、陸を行く馬は汀を踏んでよいか足場を定めかねた。水が増し洪水となって押し寄せてきたなら、丘に登ったとしてもどうして助かるだろうか。また、猛火が迫ってきたならば、河を隔てているとしても助かるはずもない。全く恐ろしくてたまらないのは大地震である。人は鳥ではないので、空に羽ばたくわけにもいかず、また、竜でもないのに、雲にもまた登ることができない。白河、六波羅など、京都中で、一体何人の人が亡くなったのか分からない。



それぞれの記述から、地震に対する作者の思いが述べられている箇所を見付けてみましょう。

鴨長明は、『方丈記』の「大地震」の最後を次のように締めくくっています。「月日かさなり、年経にしのちは、ことばにかけて言ひ出づる人だになし。（年月が経つてくると、このような災害について話題にする人もいなくなってしまう。）」と。

この一節を引用して、地震についてのあなたの考えを二百字程度で書いてみましょう。

首都直下地震等の脅威(1)

平成 24 年、東日本大地震を踏まえて東京都が見直した「首都直下地震等による

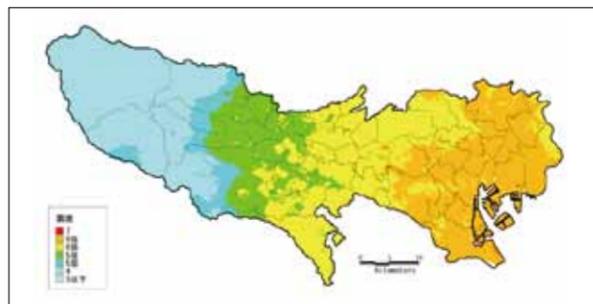
東京湾北部地震（最も被害想定が大きい場合）

想定	震源	東京湾北部
	規模	マグニチュード（以下、「M」と表記する。）7.3
	震源の深さ	約20～35km
	気象条件等	冬の夕方6時、風速8m/秒

人的被害	原因別	死者	9,641	人
		揺れ	5,378	人
		火災	4,081	人
	原因別	負傷者 (うち重傷者)	147,611 (21,893)	人
		揺れ	125,964	人
		火災	17,709	人
物的被害	原因別	建物被害	304,300	棟
		揺れ	116,224	棟
		火災	201,249	棟
避難者の発生 (ピーク:1日後)		3,385,489	人	
エレベーターの停止		7,473	台	
上水道		34.5	%	
固定電話不通率		7.6	%	
停電率		17.6	%	
帰宅困難者		5,166,126	人	

- 東京湾北部地震では震度7の地域が発生するとともに、区部の約7割が震度6強の地域となる。
- 死者が最大で、約9,700人発生すると想定されている。
- 木造住宅密集地域における火災延焼被害では、焼失棟数約20万棟、4,000人の死者が想定される。
- 震度6強で建物倒壊が生じる地域では、区部西部から東部の木造住宅密集地域にかけて、細街路の閉塞が想定される。
- 停電率は全体で17.6%であるが、区部では24.9%となる。
- 断水が34.5%のほか通信やガスなどのライフラインに被害が発生する。

東京湾北部地震 M7.3 震度分布



東京都の新たな被害想定(1)

平成24年4月、東京都は東日本大震災を踏まえ、首都直下地震など東京を襲う大規模地震に対して、より確かな備えを講じていくため、これまでの被害想定を見直しました。

東京湾北部地震と多摩直下地震の被害想定



東京の被害想定」を見てみましょう

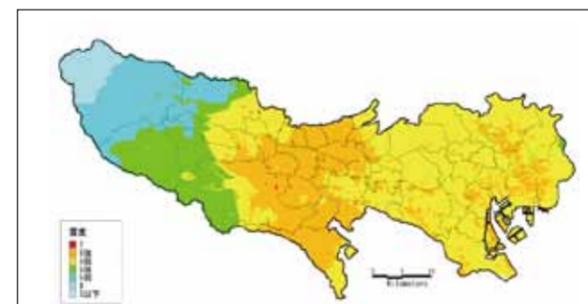
多摩直下地震（最も被害想定が大きい場合）

想定	震源	東京都多摩地域
	規模	M 7.3
	震源の深さ	約20～35km
	気象条件等	冬の夕方6時、風速8m/秒

人的被害	原因別	死者	4,732	人
		揺れ	3,220	人
		火災	1,302	人
	原因別	負傷者 (うち重傷者)	101,102 (10,902)	人
		揺れ	92,831	人
		火災	4,614	人
物的被害	原因別	建物被害	139,436	棟
		揺れ	75,668	棟
		火災	65,770	棟
避難者の発生 (ピーク:1日後)		2,756,681	人	
エレベーターの停止		5,130	台	
上水道		36.9	%	
固定電話不通率		2.0	%	
停電率		8.8	%	
帰宅困難者		5,166,126	人	

- 多摩直下地震では、震度7の地域が一部で発生するとともに、多摩の約4割が震度6強の地域となる。
- 震度6強の地域が市部を中心に分布しており、約4,700人が死亡と想定されている。
- 震度6強で建物全壊が生じる地域では、区部西部から市部全域の市街地にかけて細街路の閉塞が想定される。
- 停電率は全体で8.8%だが、小平市など3区7市では15%以上が停電する。
- 断水が36.9%が発生するほか通信やガスなどのライフラインに被害が発生する。
- エレベーターの停止台数は、区部を中心に約5,100台発生する。

多摩直下地震 M7.3 震度分布



東京都の新たな被害想定(2)

- ◆客観的なデータや科学的な裏付けに基づき、より実態に即した被害想定へと全面的に見直し（地震モデル、火災の想定方法の改良）
- ◆フィリピン海プレート上面の深さが従来の想定より浅いという最新の知見を反映
- ◆津波による被害想定を実施

再検証	〔首都直下地震〕	東京湾北部地震 (M7.3) 多摩直下地震 (M7.3)
追加	〔海溝型地震〕	元禄型関東地震 (M8.2)
追加	〔活断層で発生する地震〕	立川断層帯地震 (M7.4)

首都直下地震等の脅威(2)

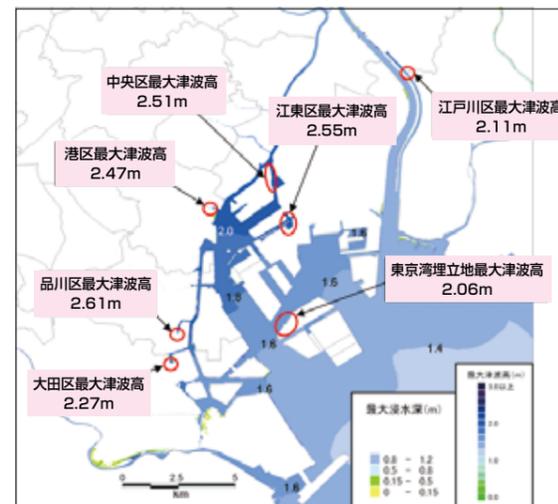
〔海溝型地震〕元禄型関東地震（最も被害想定が大きい場合）

想定	震源	神奈川県西部
	規模	マグニチュード（以下、「M」と表記する。）8.2
	震源の深さ	約0～30km
	気象条件等	冬の夕方6時、風速8m/秒

人的被害	原因別	死者	5,875	人
		揺れ	3,330	人
		火災	2,355	人
	原因別	負傷者 (うち重傷者)	108,341 (12,946)	人
		揺れ	95,256	人
		火災	9,811	人
物的被害	原因別	建物被害	184,794	棟
		揺れ	76,465	棟
		火災	114,534	棟
避難者の発生 (ピーク：1日後)		3,200,981	人	
エレベーターの停止		5,991	台	
上水道		45.2	%	
固定電話不通率		6.1	%	
停電率		11.8	%	
帰宅困難者		5,166,126	人	

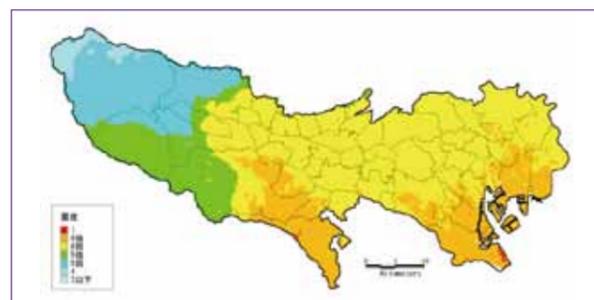
- 過去の記録等で都内に最も大きな津波をもたらしたとされる元禄16年(1703)元禄地震をモデルとして検証している。
- 都の南東部の人口密度が高い地域で、震度6強以上、場所により震度7の強い地震動の発生が想定されている。
- 死者が最大で約5,900人と東京湾北部地震に次ぐ被害が想定される。
- 東京都の南側の地震動が大きいため、品川区、大田区を中心に液状化危険度が高くなっている。
- 東京湾沿岸部の津波高は満潮時で最大T.P.2.61m(品川区)であると予測される。(地盤沈下を含む) *T.P.=東京湾平均海面
- 河川及び海岸の堤防を越えるような津波高は想定されない。

最大津波高及び最大津波浸水の分布(水門閉鎖の場合)



元禄型関東地震 (M8.2) (行谷ほか (2011)) モデル

元禄型関東地震 M8.2 震度分布



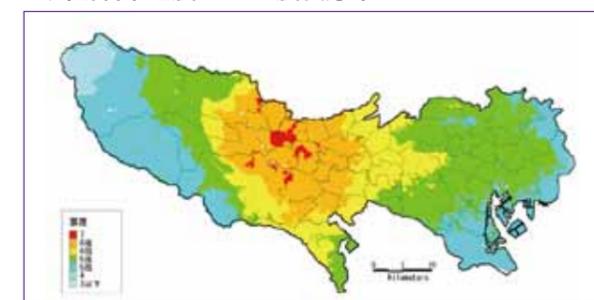
〔活断層で発生する地震〕立川断層帯地震（最も被害想定が大きい場合）

想定	震源	東京都多摩地域
	規模	M 7.4
	震源の深さ	約2～20km
	気象条件等	冬の夕方6時、風速8m/秒

人的被害	原因別	死者	2,582	人
		揺れ	1,417	人
		火災	1,056	人
	原因別	負傷者 (うち重傷者)	31,690 (4,668)	人
		揺れ	26,183	人
		火災	3,922	人
物的被害	原因別	建物被害	85,735	棟
		揺れ	35,407	棟
		火災	53,302	棟
避難者の発生 (ピーク：1日後)		1,007,138	人	
エレベーターの停止		2,308	台	
上水道		13.3	%	
固定電話不通率		1.4	%	
停電率		4.0	%	
帰宅困難者		5,166,126	人	

- 立川断層帯地震は、地下の浅い部分で発生する地震の検証である。
- 立川断層帯地震では、被害が発生する震度6弱以上の地域が、概ね市部のみに限定されている。
- 震度7の領域は、四つの地震の中で最大面積であるが、人口密集地域における震度6以上の面積は比較的少ない。
- 死者数は、四つの地震の中で最小の約2,600人と想定される。
- 直下地震のため区部の低地部の地震動が小さく、ほとんど液状化は発生しない。しかし、多摩市、八王子市の多摩川またはその支流の河川沿いに液状化危険度が高い地域が若干分布している。
- 震度6強で建物全壊が生じる地域では、市部北部を中心に細街路の閉塞が想定される。

立川断層帯地震 M7.4 震度分布



首都直下地震が発生する可能性

関東地方では、これまで200年から300年の間隔でM8前後の大地震が起こっています。また、その前後にはM7クラスの直下地震が発生しています。そのため、文部科学省地震調査研究推進本部では、今後30年の間にM7クラスの首都直下地震がおおよそ70%の確率で発生すると予測しています。

大地震発生時の行動を考えておこう

自分の命を守る「自助」
身近な人を助ける「共助」

家 特

大地震が発生した場合には、慌てず、避難訓練を思い出して速やかに行動することが大切です。また日頃から、大地震に遭った場合を想定しておく、いざというとき落ち着いて行動することができます。いろいろな地震発生場面を想定し、友達や家族と相談しながらどのように行動すればよいか考えておきましょう。

学校内で地震が発生した場合、どのように行動しますか？

- 理科室でガスバーナーを使った実験をしているとき
- 部活動で体育館にいるとき
- 放課後一人で忘れ物を取りに教室に行ったとき
- トイレに入っているとき

外出中に地震が発生した場合、どう行動しますか？

- 友人と商店街を歩いているとき
- 一人で住宅街を歩いているとき

修学旅行等の校外学習で班行動をしている時に地震が発生した場合、どのように行動しますか？

- 電車やバス等に乗っているとき
- 駅のホームで電車を待っているとき
- 見学場所にいるとき
- 海や川の近くにいるとき

自宅で地震が発生した場合、どう行動しますか？

- テレビやラジオから緊急地震速報が流れたとき
- 一人で留守番しているとき
- 火を使っているとき
- 揺れがおさまったとき

地震そのとき 10 のポイント

(東京消防庁から)

地震時の行動		地震直後の行動			地震後の行動				
<p>① 地震だ！まず身の安全</p> <p>揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたときは、身の安全を最優先に行動する。丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。</p> <p>高層階(概ね10階以上)での注意点</p> <p>高層階では、揺れが数分続くことがある。大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下する危険に加え、大きく移動する危険がある。</p> 	<p>② 落ちついて火の元確認 初期消火</p> <p>火を使っているときは、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。出火したときは、落ちついて消火する。</p> 	<p>③ あわてた行動けがのもと</p> <p>屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。</p> 	<p>④ 窓や戸を開け 出口を確保</p> <p>揺れがおさまったときに、避難できるような出口を確保する。</p> 	<p>⑤ 門や塀には近寄らない</p> <p>屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。</p> 	<p>⑥ 火災や津波 確かな避難</p> <p>地域で大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら、一時集合場所や避難場所に避難する。沿岸部では、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難する。</p> 	<p>⑦ 正しい情報 確かな行動</p> <p>ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。</p> 	<p>⑧ 確かめ合おう わが家の安全 隣の安否</p> <p>わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。</p> 	<p>⑨ 協力し合って 救出・救護</p> <p>倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。</p> 	<p>⑩ 避難の前に安全確認 電気・ガス</p> <p>避難が必要なときには、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。</p> 



日頃の備え、家庭での備え

大きな地震が発生し、役所や警察、消防から避難指示が出た場合や、自宅や近所から火災が発生し危険になった場合は、近所の小・中学校や公園などの一時集合場所に避難します。さらに、一時集合場所も危険になった場合には、区市町村の指示に従って、大きな公園や広場などの避難場所に移動して、災害が収まるのを待ちます。

その後、災害の危険がなくなったら帰宅しますが、自宅が倒壊したり焼失したりした場合には、開設された避難所に避難することになります。

いざというときに備えて事前にそれぞれの場所の確認をしておきましょう。

家庭での防災対策

家庭では大きな地震や災害に備えて、避難経路や集合場所、連絡方法などをあらかじめ家族で話し合っておきましょう。また、家具転倒防止器具を取り付けたり、非常食や防災用品などが入った非常持ち出し袋を常時用意しておきましょう。



□ スニーカー □ 防具



非常持ち出し袋の中身をチェックしましょう。

- 飲料水
- 食料
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 軍手
- 貴重品
- 救急箱
- 三角巾
- 笛
- タオル

備蓄倉庫

避難所に指定されている学校などには、地域住民のために飲料水や食料、医療品、毛布、自家発電機などいろいろな防災用品が備蓄されています。



公園内の防災倉庫（東京・葛飾区）



簡易トイレ
ヘルメット、ぼうじん防塵マスク、防塵めがね

地震に対する10の備え

- 家具類の転倒・落下・移動防止対策をしておこう
- けがの防止対策をしておこう
- 家屋や塀の強度を確認しておこう
- 消火の備えをしておこう
- 火災発生時の早期発見と防止対策をしておこう
- 非常用品を備えておこう
- 家族で話し合っておこう
- 地域の危険性を把握しておこう
- 防災知識を身につけておこう
- 防災行動力を高めておこう

自分の命を守る「自助」 身近な人を助ける「共助」

保 特

一時集合場所、避難場所、避難所の違い

一時集合場所

避難場所に避難する前に、近所の方たちと一時的に集合して被害の状況を把握するための場所です。小・中学校のグラウンドや公園などが指定されています。

避難場所

地震により、火災が発生し、地域や一時集合場所が危険になった場合に避難する場所です。

避難所

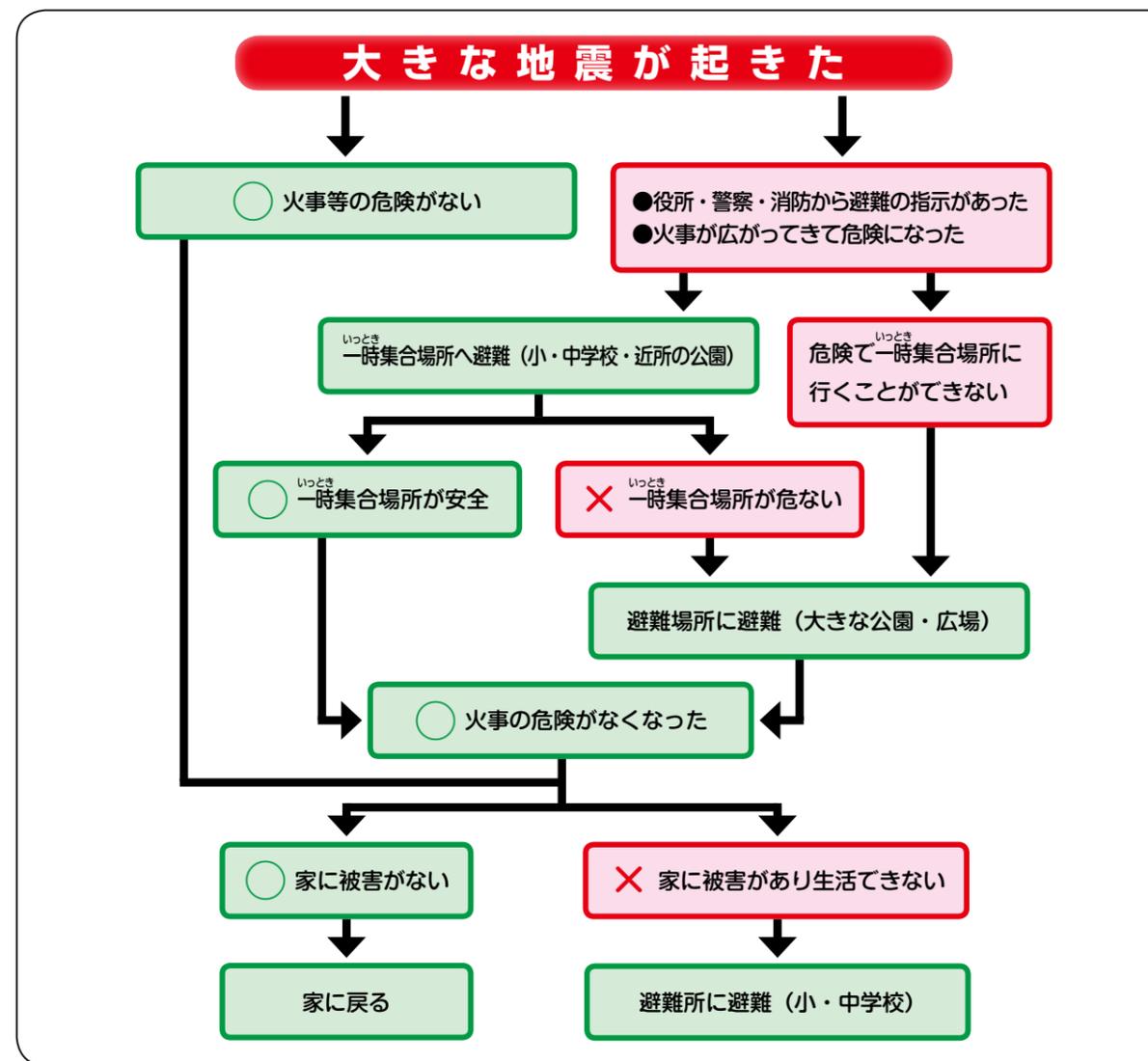
地震などの災害で自宅に住めなくなった場合に、一定の期間、避難生活を送る場所です。小・中学校や公民館など公共施設に開設される場合が多いです。

一時集合場所・避難場所

一時集合場所に集合してからまとまって避難場所へ



● 避難の順序





地域防災マップを作ろう

自分の命を守る「自助」
身近な人を助ける「共助」

総 特

大地震によって建物の倒壊や火災などが起こった場合を想定して、通学路や近所の危険箇所を記入した、地域防災マップを作成し安全な避難経路を確認しておきましょう。

地域防災マップの作り方

- 自宅を中心に学校やよく利用する駅やバス停までの簡単な地図を描きます。(既にある地図を用いてもかまいません。)
 - ①主要道路や鉄道などの交通路線を描きます。(色を塗ります。)
 - ②一時集合場所、避難場所、避難所、帰宅支援ステーション(都立学校、コンビニエンスストアなど)、役所、警察署、消防署、病院、公園、公民館など災害時の防災拠点となる施設を記入します。(マークを付けます。)
- 実際に自宅から学校、よく利用する駅やバス停等まで歩き、路上の危険箇所をチェックし、マップに記入します。
- 日頃利用している道路が通行できなくなる場合も想定して、何通りかのルートを描いておきます。



防災井戸



応急給水栓



駅に設置された AED
自分の住んでいる地域の中で AED (自動体外式除細動器) が設置されている場所を把握しておきましょう。

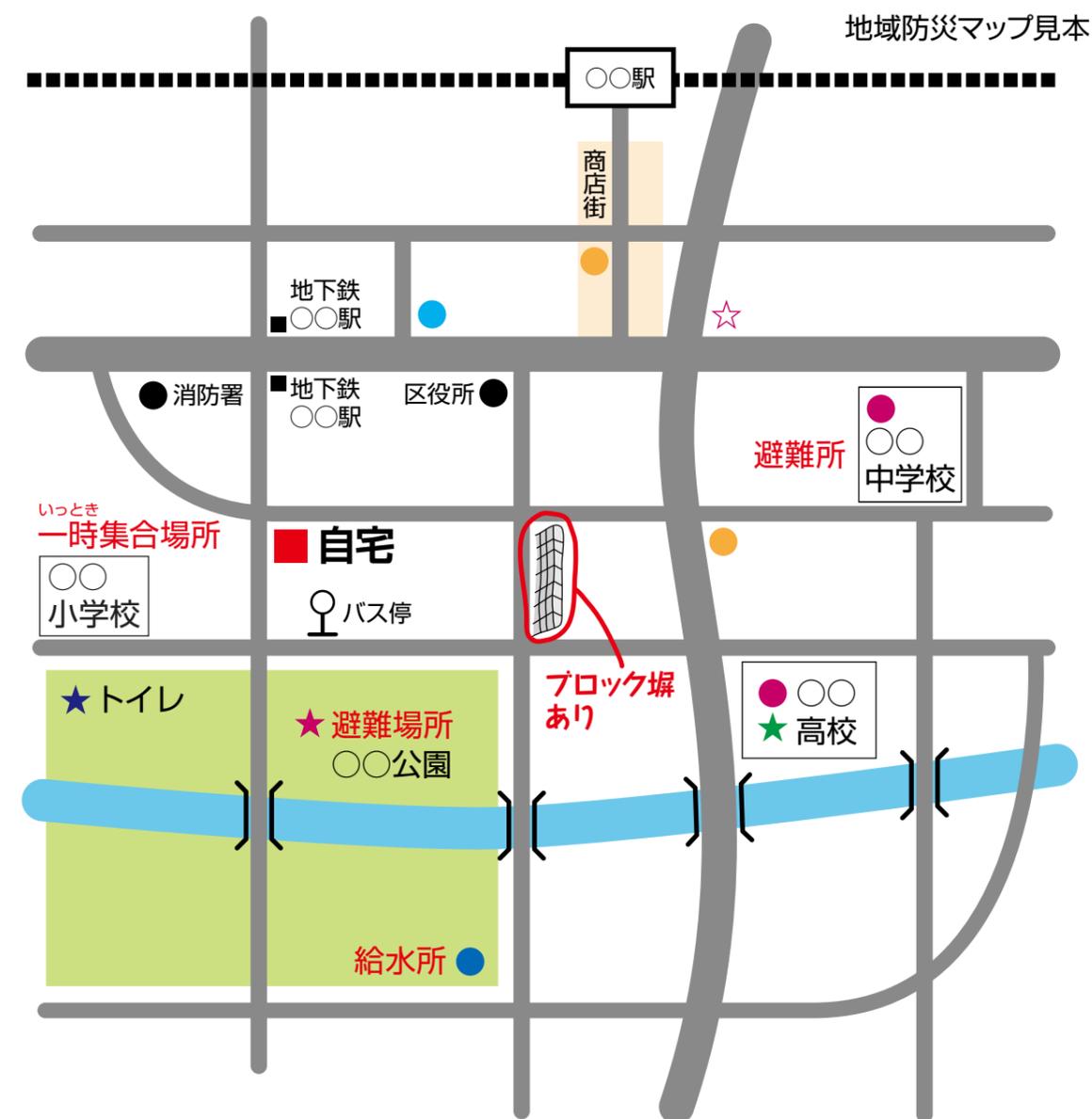
防災トピック

帰宅支援ステーション

震災時に保護を必要とする帰宅困難者に対して、水やトイレ、休息の場所を提供し、沿道や公共交通の情報などを提供するところです。平成 23 年 (2011) 3 月 11 日、東日本大震災発生当日は、東京都内でも、交通機関の運行中止や遅延などにより、多くの帰宅困難者が発生しました。足立区立千寿第五小学校では、3 月 11 日夜から 13 日にかけて、延べ 1,300 人に帰宅支援を行いました。また東京都立新宿高校では、約 2,500 人の方々を受け入れました。

東京都では、都立学校や東京武道館などの公共施設と、コンビニエンスストアやファミリーレストラン、ガソリンスタンドなどに依頼し、災害時の安全確保に取り組んでいます。

自分の防災マップを貼っておきましょう (のりしろ)



- ★帰宅支援ステーション
- ★避難場所
- 避難所
- コンビニエンスストア
- 給水所
- ★トイレ
- 支援体制のあるガソリンスタンド
- ☆警察署・交番

※備蓄倉庫や消防水利(消火栓)についても調べておきましょう。

応急手当の基本

災害時には、^{ねんざ}捻挫や骨折、やけどなど様々なけがをする可能性があります。応急手当の基本を学び、まず自分自身のけがの手当をし、さらに他の人の応急手当ができるよう、いざという時に備えましょう。

はれ、変形、痛みがある場合

はれや変形、痛みがある場合は、原因として^{たぼく}打撲、捻挫、骨折が考えられます。それらの応急手当の基本は英語の頭文字をとって RICE と言われています。

Rest (安静) …^{かんぶ}患部を動かしたり、引っ張ったりしないで、安静にする。

Ice (冷やす) …患部を冷やして、^{えんしやう}炎症を抑える。

Compression (圧迫・固定する) …包帯などで圧迫・固定して痛みを和らげ、出血を防ぎ、はれを抑える。

Elevation (高くする) …患部を心臓より高く上げて血流を減らし、はれをひかせる。

● 打撲

- ①冷やして安静にします。
- ②初期に動かしたり温めたりすると、内出血がひどくなるので注意します。

※外に傷がなくても、内部に損傷を伴うこともあります。痛みや貧血などの症状が悪化した場合は早期に医療機関を受診しましょう。

● 脱臼・骨折

①患部をできるだけ楽にして、安静にします。

②患部が腕や肩ならば、包帯や三角巾などで固定します。

※患部の固定の仕方

①患部をはさむ上下の関節をカバーするように添え木(雑誌、ダンボールなどで代用可能)を当てます。



②患部と添え木を包帯などでいっしょに巻いて動かないようにします。

● 捻挫

- ①水や氷で冷やします。
- ②包帯などを巻き、固定します。
- ③患部を高く上げ、安静にします。

足首捻挫の固定法

どうしても歩行しなくてはならないときには、足首を固定します。

- ①三角巾などを細めの帯にして土踏まずに当て、後ろで交差し、前に回します。
- ②前で交差させ、初めに後ろに回した帯の下に通します。
- ③帯を引っ張って、足首の前面で強く結びます。



[包帯や三角巾がないとき]
ふるしきや大きなハンカチ、手ぬぐいやタオル、ストッキング、シャツなどが使えます。

自分の命を守る「自助」 身近な人を助ける「共助」

保

災害にあっても落ち着いて、まずは
自分のけがの状況を把握しよう！



出血している場合

切り傷・擦り傷

- ①傷口が汚れていたら、水などできれいにします。
- ②傷口に清潔なガーゼ(ハンカチやタオルでも代用可能)を当てて強く押さえて止血します。
- ③出血が止まったら、ガーゼ(又はハンカチやタオル)の上から包帯などで巻きます。
- ④出血が止まらない場合、急いで救急隊や医師などの治療を受けます。

※感染を防ぐために、他の人の血に直接触らないようにしましょう。



鼻血

- ①座って軽く下を向き、鼻を強くつまみます。(これで大部分は止まります。)
- ②額から鼻の部分の部分を冷やし、静かに座っています。
- ③口に血が回り込んできたらはき出します。(飲み込まないようにします。)
- ④出血が止まってもすぐには鼻をかまず、様子を見ます。



やけどをした場合

やけど

- ①すぐに、痛みがなくなるまで水で冷やします。衣類でおおわれていたら、衣類の上から水をかけます。(受傷部に直接水をかけるのは避けます。)
- ②水でぬらしたタオルや氷を入れたビニール袋で冷やします。
- ③水ぶくれができてもつぶしません。
- ④重症の場合は、ただちに救急隊や医師などの治療を受けます。

※身体の表面積の20～30%以上の広い範囲でやけどが起こると重症で、治療を急がなければいけません。



応急手当の目的

応急手当の目的は、痛みや不安を和らげること、けがなどの悪化防止、生命を救うことです。手当てを迅速に行うことが回復を早め、生命を救うことにつながります。痛みや出血がある場合、また、やけどが重症な場合は、応急手当が済み次第、医療機関の治療を受ける必要があります。

地震発生時の情報の収集と活用

災害時には根拠のないうわさに惑わされ、誤った行動をとってしまうことがあります。公的機関やテレビやラジオ、新聞等の災害情報等信頼できる情報を入手し、混乱することのないようにしましょう。

情報の収集と活用にあたって

1 信頼できる情報源から、入手した情報か。

テレビやラジオのニュース、新聞記事、国や地方公共団体などの公的機関のホームページ等を情報源とした信頼性のある情報かどうか。

※ 東日本大震災発生当時、ツイッターで発信された内容には、根拠のない誤った情報が多くありましたが、ツイッターからの情報で、宮城県気仙沼市の公民館に取り残された人々を東京消防庁が空から救助した事例もありました。公共機関のホームページにアクセスできない場合は、公共機関のツイッター等を利用するようにしましょう。

なお、東京都庁広報課のツイッターアカウントは、@tocho_koho です。

2 インターネット掲示板等の情報に、あいまいさはないか。

非公式サイトや携帯電話のチェーンメール、また、誰が言ったか分からないなど、情報源があいまいではないか。また、「(知り得た情報を)何日以内に何人に伝えなければならない。」など、不確かな情報を助長するような内容の情報ではないか。

3 自分自身が、根拠のないうわさの発信源に、または仲介地点になっていないか。

あいまいな情報や、聞きかじった情報を、まことしやかに他人に伝えていないか。

※ 誤った情報、単に恐怖心をあおるだけのあいまいな情報は、人々をパニック状態に陥らせることにもつながりかねません。特に、長期間、多数の人々と同じ空間で過ごす避難所生活においては、正しい情報を入手し、適切に活用して秩序ある生活を送ることが重要です。

防災トピック

根拠のないうわさに惑わされるな (東日本大震災)

平成23年(2011)3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災は、マグニチュード9.0と推定され、岩手県、宮城県、福島県を中心とした東北地方から全国へと被害が拡大しました。このとき東京では、千葉県市原市の石油施設の火災によって「火災による、有害物質が空から降ってきている」などのチェーンメールや不確定情報などがインターネット上を駆け巡りました。その後は、金融機関をかたり、「災害救援金を受け付けております。よろしければ振り込んでいただけますか。」という電話や、インターネットによる「東日本大震災の義援金が送れる。ワンクリック1,000円」を見てクリックしたところ、不良サイトに登録されるなどの詐欺被害が起きています。

警視庁では、このようなメールが届いたり電話がかかってきたりしたら、すぐに身近な人に相談したり、110番または最寄の警察署へ通報することを勧めています。

～不確かな情報に振り回されないために～

社 特

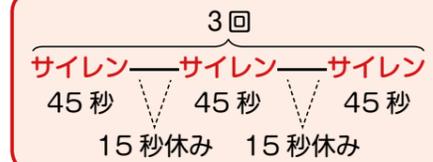
災害情報の告知

緊急地震速報 (気象庁)

テレビ、ラジオ、携帯電話などで通知されます。

警戒宣言

東海地震発生のおそれを警告する宣言が発せられた場合、区市町村や警察などは、防災行政無線、広報車、パトカー、看板などで警戒宣言が発せられたことを知らせ



ます。防災行政無線やパトカーなどは、サイレンを上記のように鳴らします。



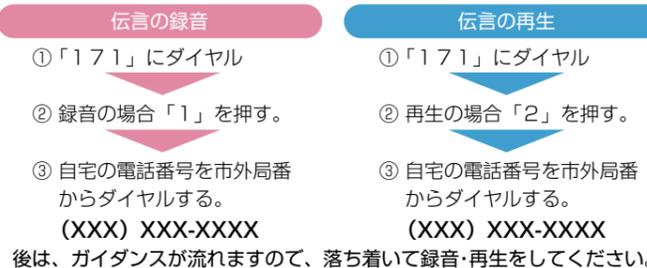
災害対応型自動販売機 (地震や洪水などの大規模災害時には、中の飲料を無償で提供する。電光掲示板がついており、災害情報が流れるタイプのものもある。)

災害用伝言ダイヤル「171」(いなし)

NTTの災害用伝言ダイヤル(171)で、家族間の安否確認ができます。

「災害用伝言ダイヤル」の使い方 災害時には電話がかかりにくい

家族の安否確認は、NTT災害用伝言ダイヤル「171」を利用しよう。



携帯電話各社の「災害用伝言板」で安否を登録確認することができます(震度6以上の場合)。

※毎月1日、15日、1月1日～3日、防災週間(8/30～9/5)、防災とボランティア週間(1/15～1/21)は体験利用ができます。家族で練習しておきましょう。

防災トピック

正しい情報を入手しよう (関東大震災)

日本で本格的にラジオ放送が始まったのは、関東大震災発生から2年後の大正14年(1925)でした。よって、関東大震災当時は、市民にとって確かな情報を入手する手段は、新聞のみでした。

しかし、南関東地方に甚大な被害をもたらした関東大震災では、多くの新聞社の家屋が焼失し、交通手段や通信手段が絶たれたため、「富士山が大爆発した」「震源地は、伊豆大島三原山の噴火と観測されている」等、誤った記事も掲載されました。

マスメディアが発達した現代社会では、私たちは、様々な情報を簡単に入手することができます。だからこそ、いざというときに、流言蜚語に惑わされないよう、日頃から、必要な情報を適切に収集する力、入手した情報を正しく取捨選択する力を身に付けておくことが必要です。





海外メディアが伝えた東日本

世界中のメディアは東日本大震災という未曾有の災害の下、冷静に規律正しく、我慢強く協力し合う日本人の姿を賞賛し、応援メッセージを大きく報道しました。

ニューヨークタイムズ (アメリカ) 電子版

Powerful Quake and Tsunami Devastate Northern Japan

「強力な地震と津波が、北日本を荒廃させた」

「日本への同情、そして賞賛」ニコラス クリストフ

Our hearts are all with the Japanese today, after the terrible earthquake there – the worst ever recorded in Japan. But the Japanese people themselves were truly noble in their perseverance and stoicism and orderliness. There’s a common Japanese word, “gaman,” that doesn’t really have an English equivalent, but is something like “toughing it out”. I find something noble and courageous in Japan’s resilience and perseverance, and it will be on display in the coming days. (一部抜粋・要約)

痛ましい地震のその後、我々は日本人の思いを共にしている。これは日本で記録された最悪の地震である。しかし日本人自身の忍耐力、冷静さ、そして秩序は、実にみごとであった。日本でよく使われる言葉に「我慢」というものがある。英語にはぴたりと当てはまるような訳はないのだが、言うならば“toughing it out.” (耐え抜く) と同じような意味である。日本の回復力と不屈の精神に、私は気高さや勇気を見出している。そしてまもなく私たちは、それを実感するだろう。(一部抜粋・要約)

〈以下、続きの記事の和訳(要約)〉これはまた、綿密に編まれた日本の社会組織、その強さと回復力が、輝きを放つときでもある。私は日本人は必ず力を合わせてくれると予感している。私たちには、日本から学ぶことがある。私たちは日本のことを思い、心を痛めている。痛ましいこの地震に深い同情と、そしてまた、心からの称賛を表したい。



インディペンデント・オン・サンデー(イギリス)

Don't give up, Japan
Don't give up, Tohoku

「がんばれ、日本。がんばれ、東北。」

1面トップで日の丸の赤い円の中に「がんばれ、日本。がんばれ、東北。」と日本語で大見出しを掲げ、東日本大震災の被災地に応援メッセージを送りました。

大震災と日本の評価

社英道

各国メディアから

中央日報 (韓国)

「東京のレストランで食事中に地震が発生しました。従業員は、落ち着いてお客全員を屋外に誘導しました。その後、お客は誰一人として無銭飲食をしないばかりか、全員が店に戻って並んで支払いを済ませていました。」

ノーバヤ・ガゼータ (ロシア) 電子版

「日本には最も困難な試練に立ち向かうことを可能にする『人間の連帯』が今も存在している。」

VNエクスプレス (ベトナム)

「いろいろな国に災害があれば、国際的な同情と援助は受けるが、日本のように尊敬され、威信を高める国は少ない。」

ストレーツ・タイムズ (シンガポール)

「日本人は、自然災害による混乱に、秩序を守りながら対処しています。」

「無料で、みんなに飲料を配布する自動販売機のオーナーと、空腹でも食料配給の列に整然と並ぶ人たち」

ルシオン (アルゼンチン)

「災害などのどんな状況下でも、隣人に対し礼儀正しく接するのが日本人です。」

世界が認めた日本の勇気

自衛隊、消防、警察の活躍がスペイン「アストゥリアス皇太子賞」(平和部門)を受賞
[平成23年(2011)10月21日]



東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故で放水作業や周辺住民の避難誘導を行った自衛隊、消防、警察の活躍が認められ、スペインのアストゥリアス皇太子賞を受賞しました。アストゥリアス皇太子賞とは、スペインの皇太子が主宰する賞で、様々な分野で成果を挙げた人物に贈られるものです。フェリペ皇太子は、当時現場にいた関係者の「勇気」や「自己犠牲の精神」に感動したと語り、「日本社会に深く根付いた価値観を体現した」と称賛し、日本に対する敬意を表しました。



世界中の人に恩返ししたい

宮城県名取市閑上中学校二年 小齋可菜子

3月11日、私達の町を大きな地震と津波がおそいました。

当時のことは、わりと覚えています。気にもしなかった小さな揺れは、大きな音と共に激しいものになりました。寝ていた私はとび起き、急いで階段を降りました。一階にはおじいちゃんとおばあちゃんがいて、三人で静かに揺れがおさまるのを待ちました。揺れている間、電気は左右に激しく動き、食器は棚から落ち、そのほとんどが割れて、まるで映画のようでした。私の家は海に近いので、おじいちゃんは窓から海の様子をずっと気にしていました。海水がひいていくのを見たおじいちゃんは、私達に避難するように指示しました。私は、余震が続く中、二階へ戻り、携帯の充電機、

上地雄輔さんの仙台公演に行くために貯めていたお金、思いついた大切な物を持っておばあちゃんの車で逃げました。

津波がきた時、私は中学校にいました。窓からは、木、車、人、閑上という場所が津波にのみこまれていた様子が見えました。

私は、この地震と津波で、大切な友達を失いました。

あまり話したことのない友達、一緒に映画を見に行く約束をしていた友達、保育園から一緒に、本当に好きだった友達、初めは信じていることができなくて、涙もでませんでした。

でも今、私達を全力で支えてくれている世界のたくさんの人達があります。避難所で、イライラすることもありますが、世界中の人達が応援してくれていると考えると、頑張れます。だから、もう少し私達を応援して下さい。世界中の人達のおかげで、私達は生きていくことができます。災害にあって、本当に人の優しさがわかりました。これからも、世界中の人に感謝して、いつか恩返しができることを信じながら、元気に生きていきたいと思っています。



いま、私たちにできること

特

大災害が発生したら、まず、自分の命を守り、次に、身近な人を助け、さらに避難所の運営など地域に貢献することが大切です。

自分の命を守ることはもちろん、身近な人を守るために、そして、周りのだれかを支えるために、中学生の私たちには、どのようなことができるでしょうか。

今の自分にできることを学び、将来の自分にできることを考えていきましょう。

避難訓練

下級生の手を引いて ～津波から身を守るために～

東日本大震災を踏まえ、江戸川区立船堀小学校では、大地震発生時の津波の被害を予想し、6年生が1年生の手を引き、校舎の屋上まで逃げるという避難訓練を実施しています。

自分の身はもちろん、下級生の子供たちの命を守るために、6年生は、1年生を気遣いながら、一生懸命走って避難します。



平成23年(2011)7月、津波を想定し、6年生が1年生の手を引いて屋上へ逃げる避難訓練(江戸川区立船堀小学校)

防災トピック

釜石の奇跡と「津波てんでんこ」

平成23年3月11日の東日本大震災において、大津波の被害に遭遇しながらも小・中学生約3千人のほとんどが助かった地域がありました。それが岩手県釜石市です。

海岸からわずか100メートルのところにある釜石市立鶴住居小学校では、最初、校舎の3階に避難しましたが、隣の釜石市立釜石東中学校の生徒が校庭に走り出ているのを見て、小学生たちは自主的に中学生のあとを追い、避難場所であるグループホームに逃げました。すると間もなく、グループホームの裏山が崩れたので小・中学生たちはすぐにまた高台の介護福祉施設、さらにその上の石材店まで逃げたのでした。その後津波は堤防を越え、鶴住居小や東中、グループホームにまで押し寄せましたが、小・中学生たちは全員無事でした。

この「釜石の奇跡」を起こしたのは、「想定にとらわれるな」「最善を尽くせ」「率先して避難せよ」という「避難三原則」でした。釜石市では昔から津波対処の言い伝えとして「津波てんでんこ」の教えがありました。これは「津波が襲ってきた時には、一人一人が一目散に走って高台に逃げよ」という意味で、こうした先人の教えが今の時代にも生きているのです。

災害時における中学生のボランティア活動

東日本大震災の被災地では、地元の中学生たちが自ら進んでボランティア活動をしています。例えば、岩手県陸前高田市立横田中学校の生徒たちは全校生徒が全国から届いた支援物資の仕分けの手伝いをしました。平成25年(2013)の台風第26号による土砂災害では、大島町の中学生や高校生が自主的に土砂等の片付けや運搬などを行いました。

また、多摩市立東愛宕中学校の生徒たちは、インターネットのテレビ会議システムを活用し、宮城県気仙沼市の中学校の生徒との話し合いを通して、災害時に中学生にできることについて考えました。

あなたなら、どんなボランティアをしますか。日頃から考えておきましょう。

炊き出しの手伝い/救援物資の仕分け・配送/高齢者の話し相手/子供たちの話し相手/ゴミの収集、運搬/清掃活動など



東日本大震災後、体育館に全国からの支援物資が搬入され、全校生徒で支援物資の仕分けの手伝いをした。(岩手県陸前高田市立横田中学校) <表紙裏-1 参照>



平成25年(2013)、台風第26号通過後の中学生による土砂等の片付け(大島町)



インターネットテレビ会議システムを活用した話し合い(多摩市立東愛宕中学校)

防災トピック

みんなのために ～3.11 中・高生の活躍～

東日本大震災当日、都立高校8校(工芸高等学校、竹台高等学校、浅草高等学校、三田高等学校、芝商業高等学校、本所高等学校、第一商業高等学校、戸山高等学校)の高校生356人は、自らも帰宅困難な状況となりながら、自校に集まった都民等のために、ボランティア活動に取り組みました。

高校生たちは、毛布やマット、飲料水を配布したり、食事の用意や配膳をしたりするなど、自分たちができることを行いました。

また、区立中学校4校(港区立港陽中学校、新宿区立新宿中学校、杉並区立高円寺中学校、北区立明桜中学校)でも、中学生が備蓄倉庫から毛布等を運び出したり、炊き出しの補助をしたりしました。



国道15号、品川駅付近(午後7時15分)



地域の防災訓練に参加しよう(1) ま

東日本大震災を踏まえ、避難訓練や防災訓練はますます重要になっています。学校や自治会などの地域に密着したことから、東京都が年1回行っている東京都総合防災訓練のように広域にわたるものまで、様々な防災訓練が実施されています。これは、都民一人一人の防災意識を高めて、災害発生時の被害を最小限にとどめるための大事な活動です。また、防災訓練は、地域の方々とお互いに知り合う大切な機会でもあり、積極的に参加することが、地域への貢献につながります。

避難訓練



防災の基本は「自助」です。まず、自分自身の安全を確保することが大切です。いざというとき自分の身を守るためには、日頃の学校生活で、例えば清掃活動や身の回りの整理整頓など、自主・自立の精神を身に付けていく必要があります。

避難するときには、壊れやすい建物や屋根瓦が落下しやすい道路の端よりも、安全でがれきの少ない道路の中央を歩いて避難したり、感電の危険がある切れた電線や倒れた電柱などに近寄らないようにします。

電柱などの倒壊時、垂れ下がった電線で感電しないよう気を付けましょう。



建物の倒壊時、がれきなどの障害物のないところを選んで歩きましょう。

[平成23年(2011)10月29日、東京都・小平市・西東京市・武蔵野市・小金井市合同総合防災訓練から]

まずは自分の命を守る「自助」

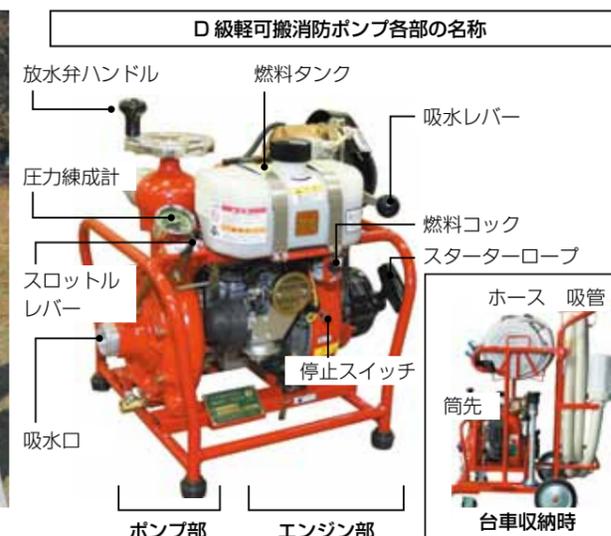
保 特

消火訓練

震災等の災害被害を最小限に抑えるためには、地域の住民の協力や中学生・高校生などの若い力による災害対応が必要です。震災等による火災時にポンプを活用した消火活動ができるようになるため、ポンプの設定から放水までの操作を、自分たちでできるように訓練しましょう。



本格的な消火放水訓練を行います。



D級軽可搬消防ポンプ操作要領



① 吸管を吸水口に結合した後、水源に吸管の先を入れます。



② ポンプのエンジンを始動し、吸水レバーを操作し、吸水します。



③ 放水を担当する人は、放水口・ホース・筒先を結合し、火元までホースを伸ばし、ポンプを操作する人に放水の準備ができた合図をします。



④ 筒先を持った人から合図があったら、放水弁ハンドルを開き放水します。水圧による反動力でバランスを崩さないよう、放水が終わるまでしっかりと保持します。



地域の防災訓練に参加しよう(2)

「共助」とは、自分自身の安全が確保できた上で、周りの人を助けることを言います。

自分の力に応じて、できることを無理なく行うことが大切です。防災訓練は災害時のためだけのものではなく、普段の暮らしや学校生活においても、とても役に立つ理論と技術を学ぶ場です。様々な防災訓練に参加することで、いざというときに周りの人たちの安全等を守るための取り組みに貢献することができます。積極的に参加するようにしましょう。

救助訓練

東京都の総合防災訓練では、実際の災害に備えて倒れた柱の下から人を救助する訓練なども行います。日頃使ったことのない自動車のジャッキを使った救助訓練などが実際に体験できます。



1班3人で力をあわせて、実際にかげきにはさまれたダミー人形(50kg)を救出する訓練をします。このとき自動車のジャッキを使います。



脱出できない人の救出



角材などでこの原理を利用して持ち上げます。



ジャッキを使って脱出できるすき間をつくります。

身近な人を助ける「共助」

保 総 特

救命訓練

人が倒れている場合は、声をかけながらすぐに救命活動を行うことが大切です。

日頃から何回も救命訓練を経験することで、躊躇することなく落ち着いて救助活動やAEDの操作ができるようになります。これは、普段の生活やスポーツを行う場でも役立つことです。



AEDを使って、2人1組で救命訓練を行います。

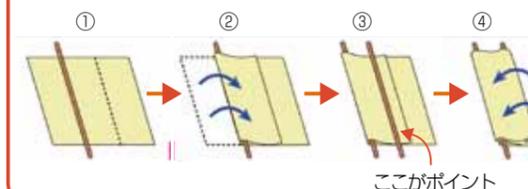


AEDは扉を開くと警報が鳴るので、緊急時以外には触らないようにしましょう。防災訓練のときに、しっかり使い方を覚えておきましょう。

簡単な担架の作り方

《用意するもの》

長くてしっかりした棒(物干竿等)2本と、毛布1枚で図のようにして作る。ポイントははさみ込む毛布の端を図(3)のようにすること。



ここがポイント

防災トピック

東京都の先生たちも、被災地で活躍しています

東京都教育委員会では、東日本大震災に伴う被災地域への人的支援を行っています。

これまでに、延べ115名(平成24年12月現在)の先生方が、宮城県に派遣され、被災地の学校で活躍されています。

宮城県の先生方は、御自身が被災されたり、御家族を失ったりしながらも、絶えず、児童・生徒を支え続けてきました。派遣された東京都の先生方も、被災地の先生方と協力しながら、被災地の児童・生徒のために、各学校で活躍しています。

また、学校運営を支えるため、被災地の教育委員会にも、延べ205名(平成24年12月現在)の東京都教育庁の職員が派遣されています。



東日本大震災で活躍した東京消防庁ハイパー

レスキュー隊 行政機関による「公助」道 総 特

宮城県気仙沼市での救出活動



東日本大震災では、自衛隊、警察と共に東京消防庁も多くの部隊を派遣しました。
東京消防庁ハイパーレスキュー隊も現場に駆けつけ、懸命な救助活動を行い、多くの住民の救出に当たりました。



日頃訓練した重機による救出活動（宮城県気仙沼市）



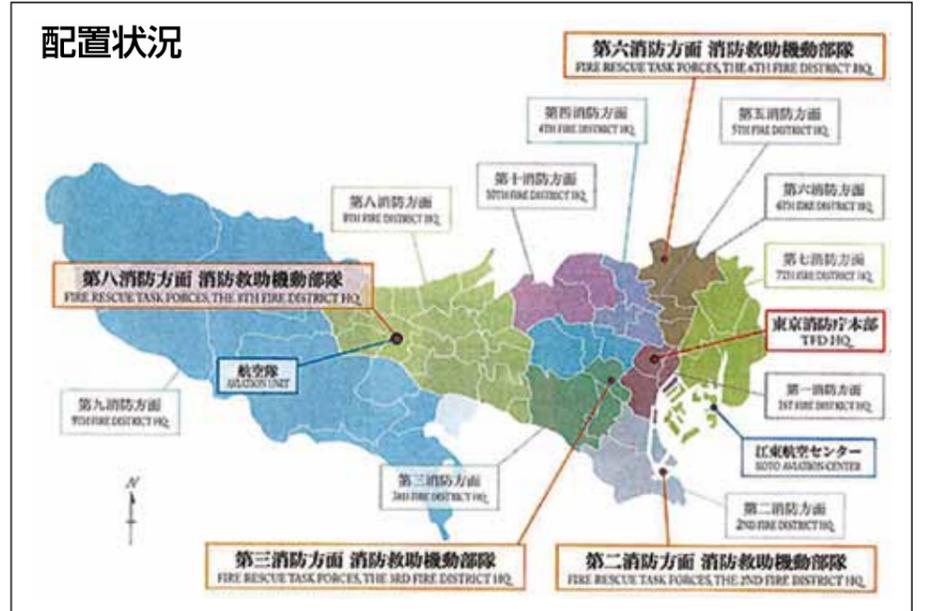
宮城県気仙沼市での救出活動

東京消防庁ハイパーレスキュー隊とは

〈正式名称〉消防救助機動部隊 平成8年（1996）12月に創設

阪神・淡路大震災の教訓から、通常の消防力では対応が困難な救助事象に迅速に対処するための部隊の必要性が提起されました。このため創設されたのが、消防救助機動部隊（愛称：ハイパーレスキュー隊）です。

消防救助機動部隊は、特殊な技術・能力を有する隊員と、大型重機など特殊車両などを備え、多数の人命を早期に救助することを目的としたスペシャリスト部隊で、第二、第三（NBC災害対応）、第六、第八消防方面本部に設置されています。



岩手・宮城内陸地震での救出活動



新潟県中越地震での救出活動



重機を活用した救助訓練



特殊な資器材を活用した訓練



東京消防庁ハイパーレスキュー

隊員からのメッセージ

道 総 特



幅4km、長さ1kmにおよぶ宮城県気仙沼市の大火災

東京消防庁ハイパーレスキュー隊員へインタビュー

東京消防庁第二消防方面本部（東京都大田区）で、消防救助機動部隊の下山部隊長にインタビューしました。下山部隊長は東日本大震災における宮城県気仙沼市の大火災について、次のように語っています。

平成23年（2011）3月11日、三陸沖での大地震の発生を受け、私たちはすぐに東北地方に向かいました。目的地は宮城県気仙沼市。津波の直後、漏れた重油に引火して、市街地で大火災が発生したためです。

3月12日午前9時、私たちが現地に着いたときには、約4km²の広い範囲で火災が起こっていました。地元消防隊員と交代する形で消火活動を始めましたが、異様な音と共に爆発が起こり、死と隣り合わせの危険を感じました。

明るる日の13日までには消火が進み、煙が少し残るだけになりました。しかし、火災がほぼ収まったところ、鹿折地区の高齢者施設に利用者約100名が取り残されていることが分かり、一人一人を背負って救助しました。

津波や火災で人が亡くなる様子を目撃した利用者からは「自分が代わってあげたかった」という声が聞こえ、返す言葉がありませんでした。



大きな被害なので特殊重機が投入されました。

下山部隊長から中学生へのメッセージ（消防救助機動部隊・部隊長）

消防士になろうと決めたのは、まだ将来の方針も決まらずにいた高校生の頃、消防士の兄に相談したことがきっかけでした。「いい職場だから試験を受けてみてはどうか。」と誘われ、もともと身体を動かすことには自信があったし、人命を救う仕事にも誇りがもてると感じたので受験しました。

幸い合格し、1年間消防学校で授業を受けた後、訓練生活に入りました。訓練は考えていたほど楽なものではなく、途中で何度も辞めたい、逃げ出したいと思いました。とにかく先輩たちに近付こうと必死に頑張りましたが、なかなか追いつけません。何年かたって、自分にも先輩を追い越せるものがあることに気付いたときには、嬉しさがぐっとこみ上げてきました。

訓練中に学んだことは、自分には仲間がいること、そしてその仲間のその力で支えられているということです。現場で救助活動をする際、地下に潜ることもあるのですが、仲間がしっかり握ってくれるロープと、状況が無線で伝えてくれる仲間がいるからこそ安心して救助に専念できます。つまり、チームワークが自分の命綱なのです。

私が、隊長として大切にしていることは、正に、この一点。「仲間を大切に、チームワークを守ること。」このことをずっと、隊員たちと共有していきたいと思っています。



現場でミーティング中の下山部隊長



救急ヘリコプターで病院に搬送



宮城県気仙沼市での救助活動



防災について調べよう

行ってみよう学べる防災センター

* 休館日などは変更する場合がありますのでホームページなどで確認してください。



地震や津波などの災害時の対処法を体感しながら学ぶことができる

気象庁 気象科学館

① 災害ポイントウォッチャー

災害に遭遇した時、どのような行動や場所が安全か、クイズ形式で学ぶことができる。

② 緊急地震速報トライアル

緊急地震速報のしくみや速報が出た時に取るべき行動について学べる。

③ ひょっとして大雨キューブ

局地的大雨の怖さや、一人一人ができる対策について解説している。

④ 津波シミュレーター

津波を模型で発生させ、映像とともに津波のしくみが学べる。



① 災害ポイントウォッチャー



② 緊急地震速報トライアル



③ 「ひょっとして大雨キューブ」



④ 津波シミュレーター

所在地：東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁 1F TEL：03-3212-8341 開館時間：10:00-16:00 入館料：無料 休館日：12月～5月の日曜・祝日（祝日が土曜の場合開館）・年末年始 交通アクセス：東京メトロ東西線「竹橋駅」4番出口から徒歩1分、東京メトロ千代田線、半蔵門線、丸ノ内線、都営三田線「大手町駅」C2b出口から徒歩5分 ホームページ：<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/kagakukan.html>

首都圏の災害を想定した体験が総合的に学べる

東京消防庁立川防災館



① 防災ミニシアター



② 地震体験室



③ 応急救護訓練室



④ 消火訓練室

① 防災ミニシアター

もし首都直下に大地震がきたらということを想定した映像を通して、備えと行動避難について学べる。

② 地震体験や煙体験

本物そっくりの震度7の揺れを体験できる。煙体験室では、避難時の煙の特性や恐ろしさについて学べる。

③ 応急救護訓練

突然の事故に備えて、正しい応急手当を学ぶためのコーナーで、AEDの取扱い方法も勉強できる。

④ 消火訓練

消火器を実際に活用した疑似体験を通して、消火器の使用法が学べる。

所在地：東京都立川市泉町 1156-1 TEL：042-521-1119 開館時間：9:00-17:00 入館料：無料 休館日：木曜・第3金曜（祝日の場合は直後の平日）・年末年始 交通アクセス：JR中央線「立川駅」北口1番バス乗り場から、立川バス「立川消防署」下車すぐ 多摩都市モノレール「高松駅」徒歩15分 ホームページ：<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-ttbskan/>

模擬災害を体験しながら防災についてしっかり学ぶことができる

東京消防庁 本所防災館

所在地：墨田区横川 4-6-6 本所消防署内 TEL：03-3621-0119
ホームページ：<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-hjbskan/>

四谷三丁目駅から徒歩直結、徒歩0分。消防車やヘリにも乗れ、江戸時代からの消防の歴史を学ぶことができる

東京消防庁 消防博物館

所在地：新宿区四谷 3-10 四谷消防署内 TEL：03-3353-9119
ホームページ：<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/ts/museum.html>



池袋駅から近く、一人でもグループでも大丈夫。いざという時の対処法を学ぶことができる

東京消防庁池袋防災館

所在地：東京都豊島区西池袋 2-37-8 TEL：03-3590-6565 開館時間：9:00-17:00 入館料：無料 休館日：火曜・第3水曜（国民の祝日に当たる場合は翌日休業）
年末年始（12月28日～1月4日） 交通アクセス：池袋駅（南口・西口・メトロポリタン口）から徒歩5分
ホームページ：<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-ikbskan/>



① 地震コーナー



② 救急コーナー



③ 救助・救出コーナー



④ 図上訓練コーナー

① 地震コーナー

地震コーナーでは、長周期地震動による揺れや東日本大震災の波形に基づく揺れを、煙コーナーでは、煙の性質を学び、避難をする体験ができる。

② 救急コーナー

心肺蘇生法の体験ができ正しい応急処置を学べる。

③ 救助・救出コーナー

消火コーナーでは、消火器の使用法を実際に体験して習得できます。救助・救出コーナーでは、屋内や屋外での救助・救出方法を体験し、技術を身につけることができる。

④ 図上訓練コーナー

地図に防災施設等の情報を書き込み、地域の防災力の確認ができる（東京都内の町会・自主防災組織対象）。

東京都で最初にできた防災啓発施設。防災に対する正しい知識を身に付けることができる

東京都北区防災センター（地震の科学館）



所在地：東京都北区西ヶ原 2-1-6 TEL：03-3940-1811 開館時間：9:00-17:00 入館料：無料 休館日：月曜（月曜が祝日の場合火曜も休館）・祝日（土曜除く）・年末年始 交通アクセス：JR京浜東北線「上中里駅」から徒歩5分、東京メトロ南北線「西ヶ原駅」1番出口から徒歩5分 ホームページ：<http://www.city.kita.tokyo.jp/docs/facility/242/O24231.htm>

① 地震体験

起震装置を使って関東大震災、阪神・淡路大震災など実際の揺れを体験することができる。

② 初期消火訓練・煙体験

小さな火のうちに消し止めることで、被害を最小限に食い止められ、煙の性質を学び、避難訓練ができる。

③ 応急救護訓練

モデル人形を使用し、AED（自動体外式除細動器）の使用法など正しい応急処置を学べる。

④ その他の体験

AEDを使用した心肺蘇生・三角巾・救出救護・簡単なロープワークなどの体験ができる。



① 地震体験コーナー



② 初期消火訓練・煙体験コーナー



③ 防災クイズコーナー

東京都震災復興記念館

関東大震災の惨禍を永く後世に伝え、震災後に東京を復興させた当時の大事業を記念するために東京都慰霊堂の付帯施設として建設された。震災被害資料、油絵、写真、復興模型や震災遺物などが展示されている。

所在地：東京都墨田区横網 2-3-25 TEL：03-3622-1208（横網町公園事務所） 交通：JR総武線「両国駅」下車・西口から徒歩10分 / 都営地下鉄大江戸線「両国駅」（江戸東京博物館前）下車A1出口 徒歩2分 ホームページ：<http://www.tokyoireikyukai.or.jp/kinenkan.html>



震災復興記念館

江戸東京博物館

江戸東京400年の歴史と文化を展示している博物館。東京ゾーンでは関東大震災とその後の復興の様子を展示している。

所在地：東京都墨田区横網 1-4-1 東京都江戸東京博物館（TEL 03-3626-9974） 交通：JR総武線「両国駅」西口下車 徒歩3分 / 都営地下鉄大江戸線「両国駅」（江戸東京博物館前）A4出口 徒歩1分 ホームページ：<http://www.edo-tokyo-museum.or.jp/>



東京都の防災対策を調べてみよう 総

平成24年(2012)11月東京都防災会議は、東京都地域防災計画を策定しました。この計画は、都の被害想定や東日本大震災などの最近の大規模地震から得た教訓等を踏まえて策定されたものです。これにより自助・共助・公助を実現し、都民の生命・身体及び財産を保護するとともに都市の機能を維持することにより東京の防災力を向上し「首都東京の防災力の高度化」を目指します。

【東京都地域防災計画の視点と対策】

都の被害想定(平成24年4月)

● 強い揺れや火災によって、重大な人的被害が発生

最大死者数 = 約1万人、最大避難者数 = 339万人、帰宅困難者数 = 約517万人など

● 都民のくらしと都市機能を支える住宅やライフライン等に大きな被害が発生

全壊棟数 = 約30万棟、ライフライン被害 = 断水率約35%・停電率約18%など

こうした被害を抑制するため、3つの視点で、具体的な目標をあげて対策を進めます

地域防災計画(震災編)における対策と全体像

視点1

自助・共助・公助を束ねた地震に強いまちづくり

- 都民と地域の防災力向上
- 安全な都市づくりの実現
- 交通ネットワーク・ライフライン等の確保
- 津波等対策

視点2

都民の命と首都機能を守る危機管理の体制づくり

- 広域連携による応急対応力の強化
- 情報通信の確保
- 医療救護等対策
- 帰宅困難者対策

視点3

被災者の生活を支え、東京を早期に再生する仕組みづくり

- 避難者対策
- 物流・備蓄・輸送対策の推進
- 放射性物質対策
- 住民の生活の早期再建

東京都の防災対策について、東京都のホームページなどでもっと詳しく調べてみましょう。

● 参考文献・資料 ●

参考図書 「あの日この日(一)」尾崎一雄 講談社文庫 「評解 小倉百人一首(増訂版)」京都書房
新日本古典文学体系「平家物語」「方丈記」岩波書店
「ビジュアル版 幸せを運ぼう」「ビジュアル版 幸せを運ぼう」制作委員会
雑誌「近代消防」近代消防社 平成17年～23年 「平成23年度版 防災白書」内閣府
「言葉の力」猪瀬直樹 中公新書ラクレ 「理科年表」平成24年・机上版 国立天文台 丸善
「美しく愛しき日本」岡野弘彦 角川学芸出版

官公庁関係 「首都直下地震による東京の被害想定」東京都防災会議地震部会 「東京都地域防災計画」東京都防災会議
「みんなの防災ガイドブック」東京都 「東京都防災対応指針」東京都
「私たちの東京を地震から守ろう」東京都 「防災48」総務省消防庁
「東京都の防災対策の手引き～首都東京が直面する危機への備え」東京都
平成23年度版「地震と安全」東京都教育委員会 「学校危機管理マニュアル」東京都教育委員会
高等学校「保健」補助教材「災害の発生と安全・健康～3.11を忘れない～」東京都教育委員会
「東京都及び区市町村教育委員会指導主事等による東日本大震災被災地視察研修報告書」東京都教育委員会

ホームページ 文部科学省「日本の地震活動」「地震発生のメカニズムを探る」 東京都「東京都防災ホームページ」
東京消防庁「東日本大震災関連ページ・救急アドバイス」 海上保安庁「東日本大震災関連ページ」
国土交通省「台風による被害ページ」 警視庁「東日本大震災関連ページ」
気象庁「気象科学館・台風被害・火山被害ページ・地震と津波 平成21年3月」
北区防災センター「ホームページ」 内閣府「防災情報のページ」 「稲むらの火の館」ホームページ
総務省消防庁ホームページ 警察庁「東日本大震災情報ページ」

監修 東京大学名誉教授 阿部 勝征
危機管理教育研究所代表 国崎 信江

制作協力 朝日新聞社 阿部和夫(元宮城県石巻市教育委員会) 石巻日々新聞社 稲むらの火の館
岩手県教育委員会 岩手県立高田高等学校 岩手県陸前高田市教育委員会
岩手県陸前高田市立横田中学校 岩波書店 江戸川区立船堀小学校 大島社会福祉協議会 大田区
海上保安庁 鎌倉市観光協会 気象庁気象科学館 気象庁東京管区気象台
北区防災センター地震の科学館 共同通信社 近代消防社 恵学社 警視庁 高徳院 講談社
神戸新聞社 国土交通省 国土交通省利根川上流事務所 小平市立小平第一中学校
澤井史郎(福島県いわき市立湯本第二中学校長) (社)陸前高田青年会議所 杉並区立杉並第七小学校
台東区立下町風俗資料館 台東区立中央図書館 中日新聞社東京新聞 筑波大学付属図書館 東海新報社
東京消防庁 東京都学校防災教育推進委員会 東京消防庁立川防災館 東京都江戸東京博物館
東京都震災復興記念館 東京都水道局 東京都総務局総合防災部 東京都立田無工業高等学校
東京都立武蔵高等学校附属中学校 内閣府 中野区 日本清涼飲料工業会 日本電報通信社
ニューヨークタイムズ社 広川町教育委員会 福島県いわき市教育委員会
福島県いわき市立豊間中学校 復興宮城復興局 文藝春秋社 防衛省 北淡震災記念公園
毎日新聞社 宮城県石巻市教育委員会 宮城県観光課 宮城県気仙沼市教育委員会
宮城県気仙沼市立条南中学校 宮城県名取市教育委員会 三宅村教育委員会 多摩市立東愛宕中学校
※制作協力には図版・写真提供を含む。

なお、東京都教育委員会においては、次の者が本書の作成に当たった。

教育庁指導部指導企画課長	出張 吉訓
教育庁指導部主任指導主事	石田 周
教育庁指導部指導企画課統括指導主事	熊谷 恵子
教育庁指導部指導企画課課務担当係長	西脇 良和
教育庁指導部指導企画課指導主事	千葉かおり

所属は平成25年3月31日現在のものである。

(平成27年度担当)

教育庁指導部主任指導主事	児玉 大祐
教育庁指導部指導企画課統括指導主事	高汐 康浩
教育庁指導部指導企画課課長代理(課務担当)	苦米地 守
教育庁指導部指導企画課指導主事	伊藤 公志

防災教育補助教材
中学校版「3.11を忘れない」(平成27年度)

東京都教育委員会印刷物登録
平成27年度 第29号
(東京都教育委員会主要刊行物)

初版発行 平成24年1月20日
新版発行 平成24年12月20日
印刷 平成27年8月10日

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
東京都庁第一本庁舎38階

電話番号 03-5320-6836
編集協力 音羽印刷株式会社
印刷 音羽印刷株式会社

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
石油系溶剤を含まないインキを使用しています。

本書の内容について許可なく転載・複製することを禁じます。

復興に向けて・・・

被災地から、東京都の中学生にメッセージをいただきました。

震災の翌日、街を見ました。津波で壊れた建物、打ち上げられた漁船
…あちらこちらでは白煙が上がっています。買い物に行った店も、友達と遊んだ公園も青くきれいな海岸も跡形もありませんでした。

そしてその日を境に私の生活は一変しました。水は出ない、電気はつかない、ガスは使えない…食べ物をかうために行列に並んだり、給水車から水を運んだり、それでも工夫すれば生活できることを知りました。

全国からたくさんの支援をいただきました。自衛隊、東京消防庁、各県警から派遣された皆さん。がれきの撤去、消防活動、救助活動…ご自分も家族を残し、ふるさとを離れての任務でしょうに、いつもそばきと過酷な仕事をこなしていらっしゃいました。そして、たくさん寄せられた支援物資。小学校の低学年でしょうか。つたない文字で「がんばってね」「おうえんしてるよ」といったメッセージが綴られたものには心が和みました。ボランティアとして足を運んでくださった皆さん。住宅の泥をかき出したり、避難所の炊き出しをしてくださいたり…自分の家族を助けるがのように仕事をしてくださいました。

あれから7か月。街は少しずつ片付き、避難所の人は仮設住宅に移り、だんだんいつもの生活が戻ってきました。それでも、むき出しの海岸線や朽ちた建物などは「あの日」の惨状を残したままです。私の好きなふるさと気仙沼は全国の皆さんの支援を石壁にきつと元気になります。いえ、私たち若い世代が元気にしてみせます。今は、「ありがとう」の言葉を返すしか術がありません。でも、誰かが支えてくれているというのは、本当に心強いものです。これからの気仙沼を見ていてください。

気仙沼市立 桑南中学校 3年

及川 文音

たかた
新生高田 !!



この作品のテーマは「新生高田!!」です。

あの3月11日に起こった震災で多くの人々が犠牲になり、家も車もすべてを津波によって流されました。私はあの日、高田高校で部活をしていて、第2グラウンドの方に避難しました。

津波を見た次の日、町には少数の建物しか残ってなくてあの町並みはもう見られないと思ったら信じられませんでした。あれから半年が経ち、今では前とほぼ変わらない生活を送っています。部活動でこの話を知り、自分の思っている絵を描きました。私は絶対に海は描きたくて海を中心の上に。そして海の下にある線路は防波堤を兼ね備えています。高田の町並みがあって、手前に見える時計台は市役所で高田のシンボルです。右側に見える青い屋根の建物は、高田高校です。そして、左側に見える大きな観覧車は高田を一望できます。ここは高田の新しい名物スポットと考えています。他にも博物館や図書館、遊ぶ場所、買い物できる場所を設けました。

復興が進んでこんな風になつたらいいなと思いながら描きました。

岩手県立高田高等学校1年 西楨 美紀

今の福島が本当に大好きです

私たちは、あの3月11日の大震災から、全てが変わってしまって、今、藤間中学校に間借りして勉強しています。豊間中学校の校舎は、1階が津波で流されてしまっていて、いつ、豊間中にもどれるのか分かりません。早く豊間中学校にもどりたいです。部活動では、月曜日と金曜日は藤間中の体育館を使わせていただいています。本当に藤間中学校には、感謝しています。

また、今まで支援してくださったみなさんにも本当に感謝しています。私たちは、みなさんの支援のおかげでとても元気になりました。これからの事は、分かりませんが、私たちは、これからもずっと元気でいたいし、早く、復旧・復興して、早く3月11日以前よりも良い福島にしていきたいです。私は、今の福島が本当に大好きです。

平成23年10月 福島県いわき市立豊間中学校 1年 鈴木 里歩



東京都教育委員会

			立	学校
2年	組	番	氏名	
3年	組	番		